



取扱説明書

【電動リモコン作業機スマモ専用ユニット】

刈刃ユニット M700



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると事故を引き起こすおそれがあります。ご使用前に必ずお読みください。お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

安全作業で家族も笑顔

目次

はじめに	1
銘板ラベル	2
サービスと保証について	3
安全にお使いいただくために	4
安全ラベル	9
各部の名称	10
取付方法と運転準備	12
刈刃ユニットの取付け	12
刈刃ユニットのフローティング調整	16
刈刃回転方向の設定	17
運転方法	18
刈刃を回転させる	18
草刈り作業を行う	20
点検・整備	23
点検・整備方法と確認箇所	24
配線の外れ・破損・断線の確認	24
異物(土・草など)の確認と清掃方法	24
各種スイッチの確認	26
消耗部品の確認	27
各部締め付け	28
ピン・シャフト類へのグリス塗布	28
刈刃の交換	29
運搬する時	35
トラック等への積み降ろし	35
ロープによる固定方法	36
長期間使用しない時	37
トラブルシューティング	38
異常診断機能	40
消耗部品一覧	42
主要諸元	43

はじめに

ササキ電動リモコン作業機 smamo(スマモ)専用刈刃ユニット M700 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- ◎この取扱説明書は、刈刃ユニット(以下本機)の取扱方法と、使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には、必ずこの取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でお使いください。
- ◎本機は電動リモコン作業機 smamo(以下スマモ)に装着し作業をする製品となっております。スマモ付属の取扱説明書と併読し、安全で正しい作業をお願い申し上げます。
- ◎コントローラーの基本操作は本取扱説明書及びスマモ付属の取扱説明書及びコントローラーの取扱説明書を併読し、正しい取り扱い方法を実施してください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する重要事項を次の表示で区分し説明しております。

	安全に関わる注意情報を意味しています。
---	---------------------

 危険	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る危険が差し迫って生じると想定される場合を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
 注意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
重要	正しい操作の方法や点検整備上のポイントを示してあります。

- * 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部本機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- * 本書と付属の取扱説明書は大切に保管し、本機を貸与または譲渡される場合は、必ず本書と電動リモコン作業機 smamo 付属の取扱説明書をセットで添付してください。
- * ササキ商品には保証書をおつけしています。保証書もよくお読みいただき、大切に保管してください。
- * 本書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店にご注文ください。

ご不明な点や不具合などありましたら、お早めにお買い上げの販売店にご相談またはお申しつけください。

銘板ラベル

型式名、シリアル番号は問い合わせや部品を注文する際に使用します。

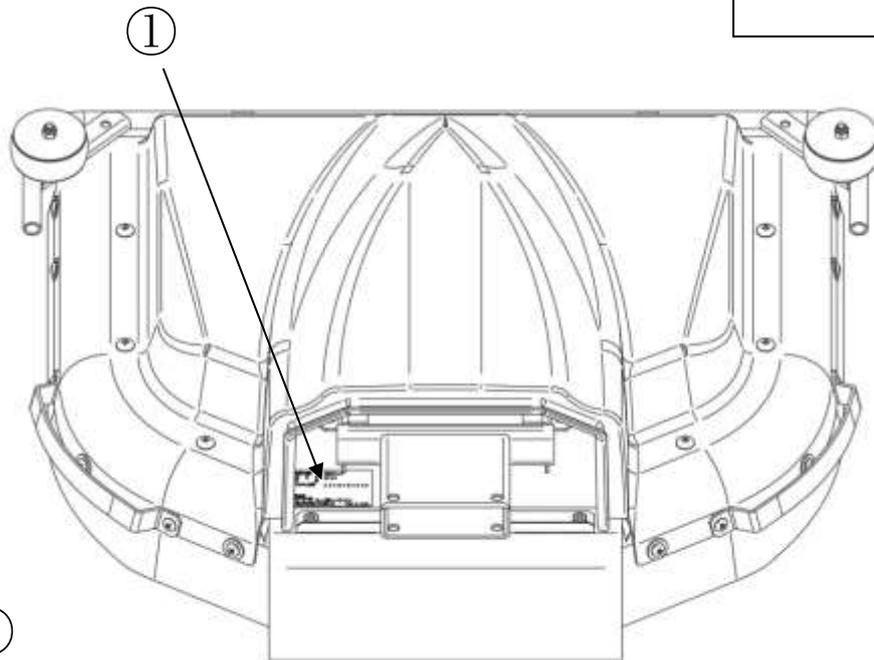
下図の銘板ラベル①をご参照し、型式名②、シリアル番号③を右の欄に記入してください。万一の盗難時のために型式名、シリアル番号などは他の資料にも記録してください。

型式名

シリアル番号

購入年月日

購入先



①



②

③

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障や、ご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買い上げいただいた販売店等へご相談ください。

その際、銘板に記載している型式名とシリアル番号をお知らせください。

■ サービスの実施

お買い上げいただきましたご購入先が点検・修理をはじめサービスの相談などをお受けいたします。

なお、部品のご注文の際は、ご購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらで
ご相談ください。



機械の分解・改造は危険ですので、絶対に改造しないでください。

分解・改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、
メーカー保証の対象外となりますのでご注意ください。

▲ 安全にお使いいただくために

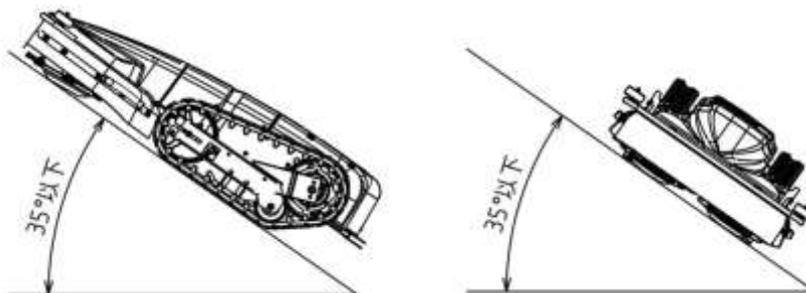
- ご使用前に必ず取扱説明書および本機に貼り付けしているラベル類を最後までお読みいただき、正しい操作方法をよくご理解ください。
- 本製品は日本国内仕様です。海外ではご使用にならないでください。
保証の対象外となります。
- 過労時や飲酒、薬物を服用して機体を使用しないでください。
- 使用前点検、定期点検を必ず行ってください。
- 機体を取り扱うときは、すべりにくい安全靴・保護メガネ・手袋を着用してください。
また、作業環境に合わせた安全具（ヘルメットや耳栓など）の装着をしてください。
- 子供や正しい操作方法を知らない人には操作させないでください。
- 悪天候などで視界が悪い時は、作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 機体を操作する人以外は作業範囲内に入れないでください。
- バッテリー及び本体に電源が入っている状態で刈刃部を、のぞいたり、手足を近づけないでください。
- 機体に異常な振動・音・においがあるときは停止し、お買い上げいただいた販売店で点検・整備を受けてください。
- 本機は本体表面側からの水の浸入を防ぐ仕様となっておりますが雨天時は作業を行わないでください。作業中に雨が降ってきた場合は速やかに作業を中断し機体を安全な場所へ移動し、コントローラーが濡れないようにしてください。
- 刈刃の回転を止めた直後はまだ刈刃が回転しています。10 秒程度まった後に刈刃が回っていないことを確認し点検・整備を行ってください。また、刈刃の回転はモーター制御により速やかに停止するように設定されていますが、刈刃ユニットが上に上がっている場合、カッターガードは 10 秒まった後も回っていることがあります。その際は刈刃ユニットを下げ地面に当てるか、長い棒などをカッターガードの底部分に当て緩やかに回転を止めてください。

▲ 安全にお使いいただくために

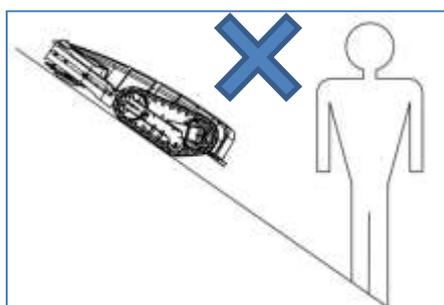
以下に代表的な注意事項を記載しておりますが、各項ごとに気を付けるポイント等を記載しております。各項の内容も熟読し安全で正しい取り扱いをお願いいたします。

▲ 警告

- 刈刃部を点検・整備する際は必ず本体とコントローラーの電源を切ってください。
- 刈刃回転を行う際は機体の近くに人がいないことを十分に確認してください。特に作業員以外の方は刈刃の回転のタイミングが分からない為、安全な範囲にいる場合でも声掛けなどを行い注意喚起してください。
- 刈刃回転中は決して回転部に近づいたり、覗き込んだりしないでください。
- 草刈作業を行う際は作業範囲内に作業員以外の人を入れないでください。
- 傾斜地での作業は 35° 以下であることを確認してください。指示外の角度の傾斜地で作業を行うと機体の姿勢が不安定になり転倒する恐れがあります。また、 35° 以下であったとしても部分的に凹みがあり 35° 以上になるような場合や、地面が緩い状態、ぬかるんでいる場合は転倒の危険があります。作業姿勢を見ながら危険と判断した場合は機体から離れて一度作業を停止し 35° 以下の場所へ低速で移動するか、コントローラーと本体の電源を切り、手で引っ張って移動してください。また、傾斜地での作業は低速で行い急発進や急停止を行わないでください。



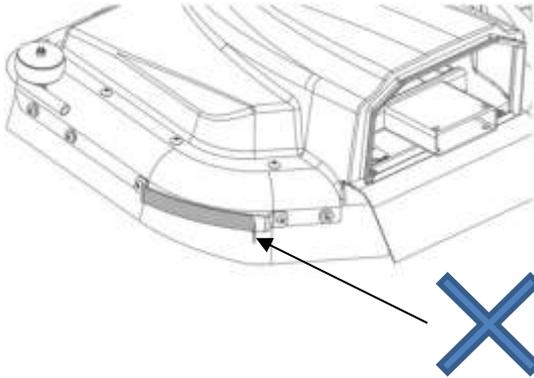
- 傾斜地での作業時は機体の下側に立たないでください。



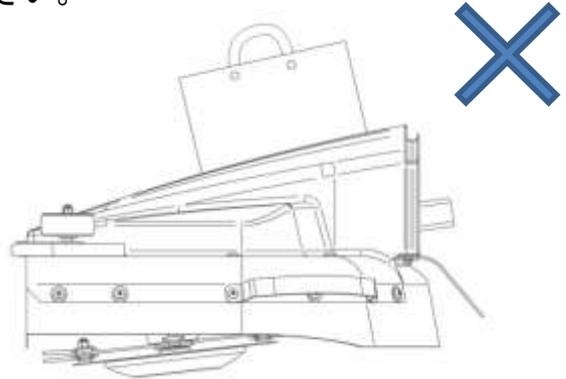
▲ 安全にお使いいただくために

▲ 注意

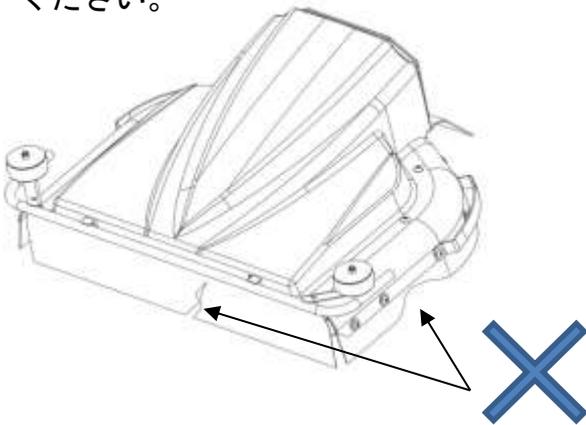
- カバーやラベルなどを外した状態や剥がれかけた状態で作業しないでください。



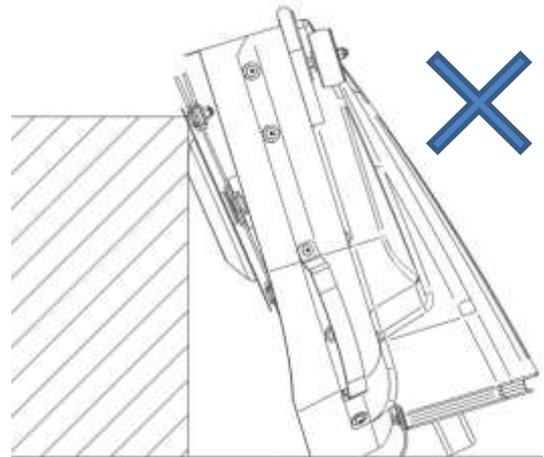
- 機体の上に乗ったり物を載せないでください。



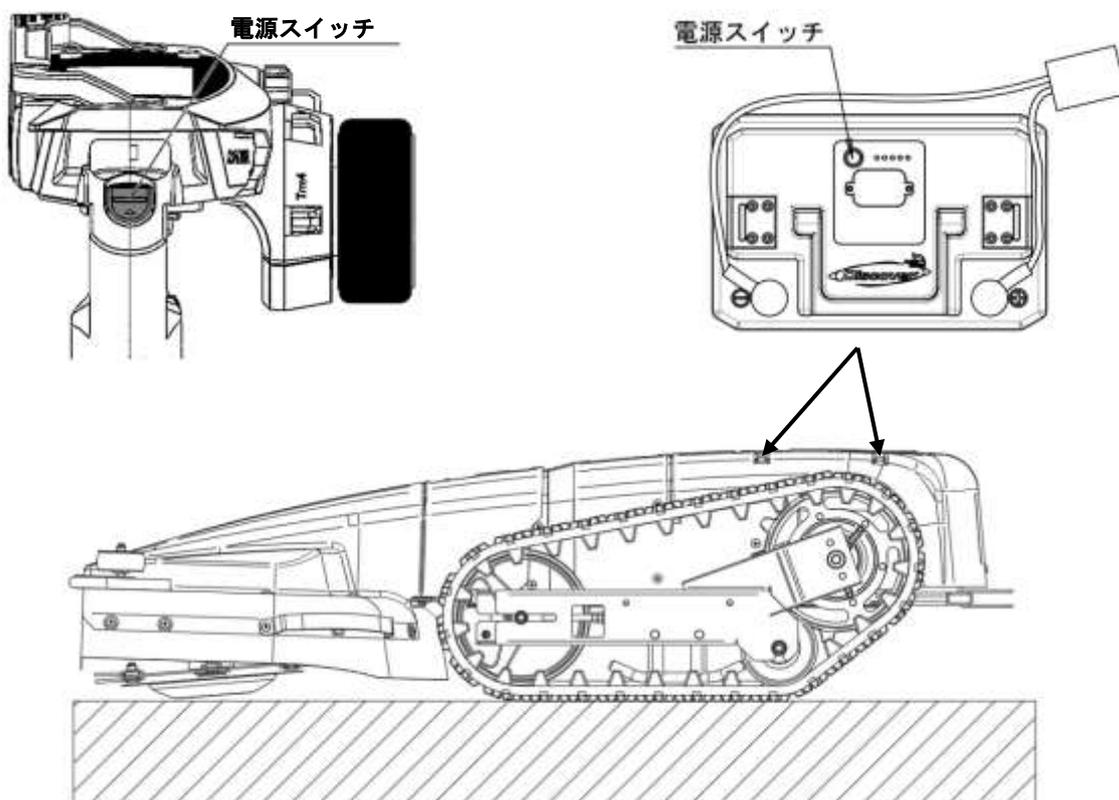
- 使用前には刈刃カバー回りの各種スカート
の破れなどの異常がないかを確認して
ください。



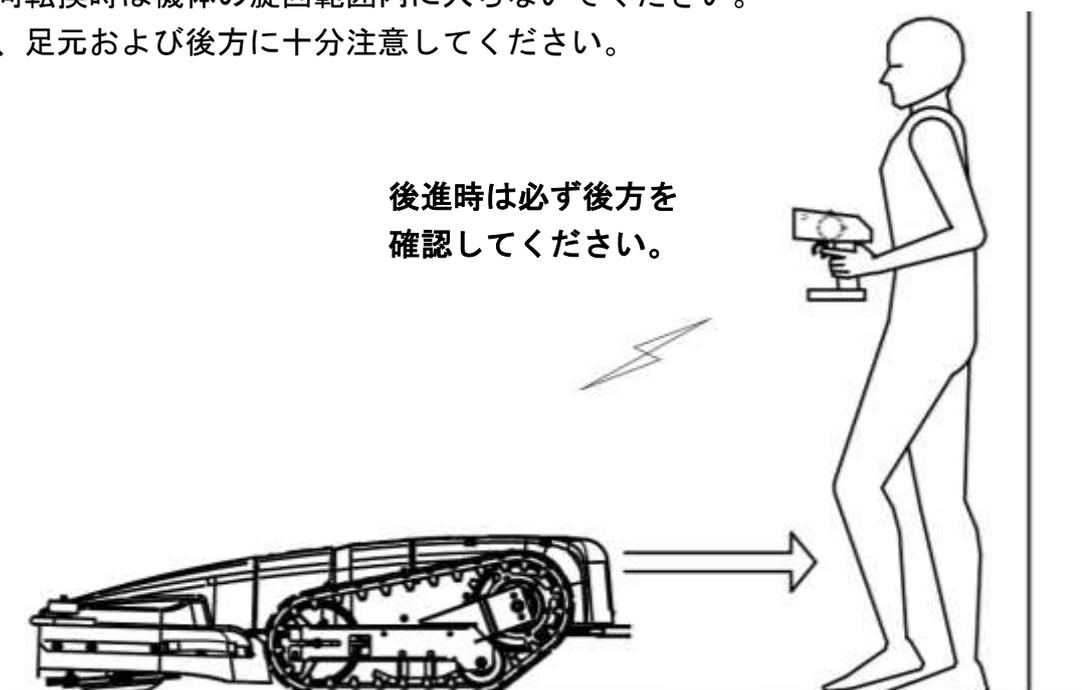
- 機体を立て掛けないでください



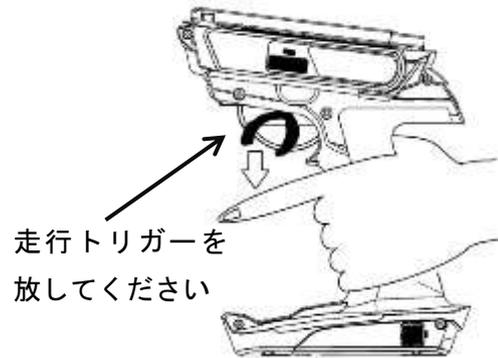
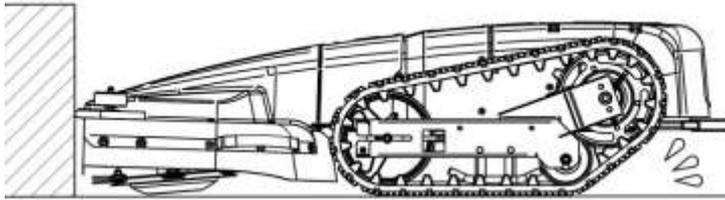
- 機体を駐車するときは平坦な場所に止め、コントローラーの電源スイッチを切り、バッテリーの電源スイッチを2~3秒長押しして「OFF」にしてください。



- 移動中は機体周辺に人がいないことを十分に確認し、コントローラーをしっかり握り、前後進以外の操作は必ず両手で行ってください。
また、方向転換時は機体の旋回範囲内に入らないでください。
後進時は、足元および後方に十分注意してください。



- クローラがスリップする状態では、走行トリガーを握り続けしないでください。
バッテリーの消耗が早くなります。



- 使用しない時は、本体側バッテリーの電源スイッチとコントローラーのスイッチを切ってください。
- 作業後は、機体上面や刈刃回りの草、土、砂、砂利などの異物を取り除いて格納してください。残った土や草が固まり、次の使用に支障があるばかりでなく、故障の原因になります。
- 本機は水洗い可能となっておりますが、高圧洗浄機の使用は行わないでください。スマモ本体に取り付けた状態ですべてのカバーを取付け、ホースによる放水にて刈刃カバー内部やカバーの表面の汚れを落としてください。水洗後は十分に本体の水滴を拭き取ってください。
- 長期保管の際は、各部メンテナンスを行い、保管してください。

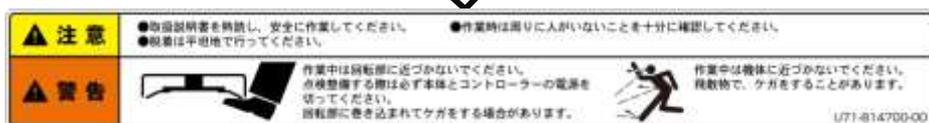
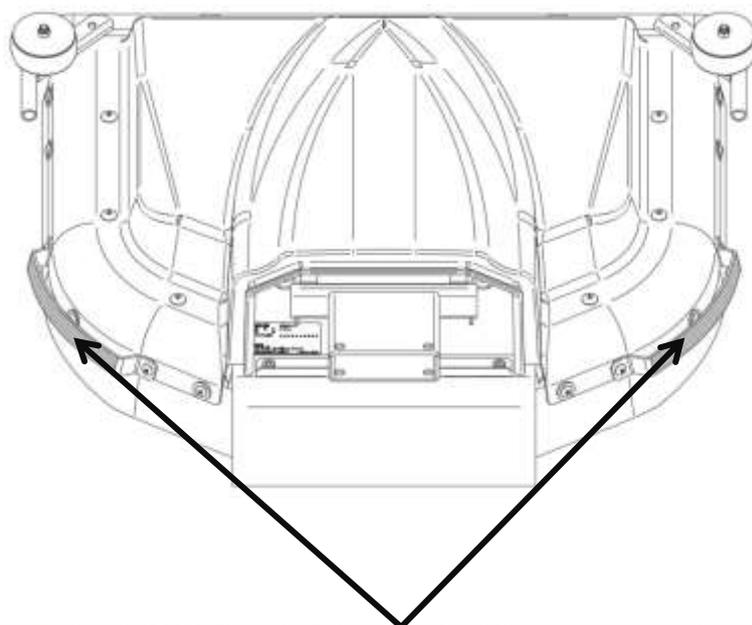
安全ラベル

機体を安全に使用するために、本機は安全ラベルを貼っています。安全ラベルをよく読んでからご使用ください。

万一、本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失、汚れなどでラベルが読めなくなってしまった時は、新しいラベルと交換してください。

また、安全ラベルが貼り付けてある部品を交換する場合も、ラベルを新しいものに貼り換えてください。

安全ラベルはお買い上げ販売店にご注文ください。



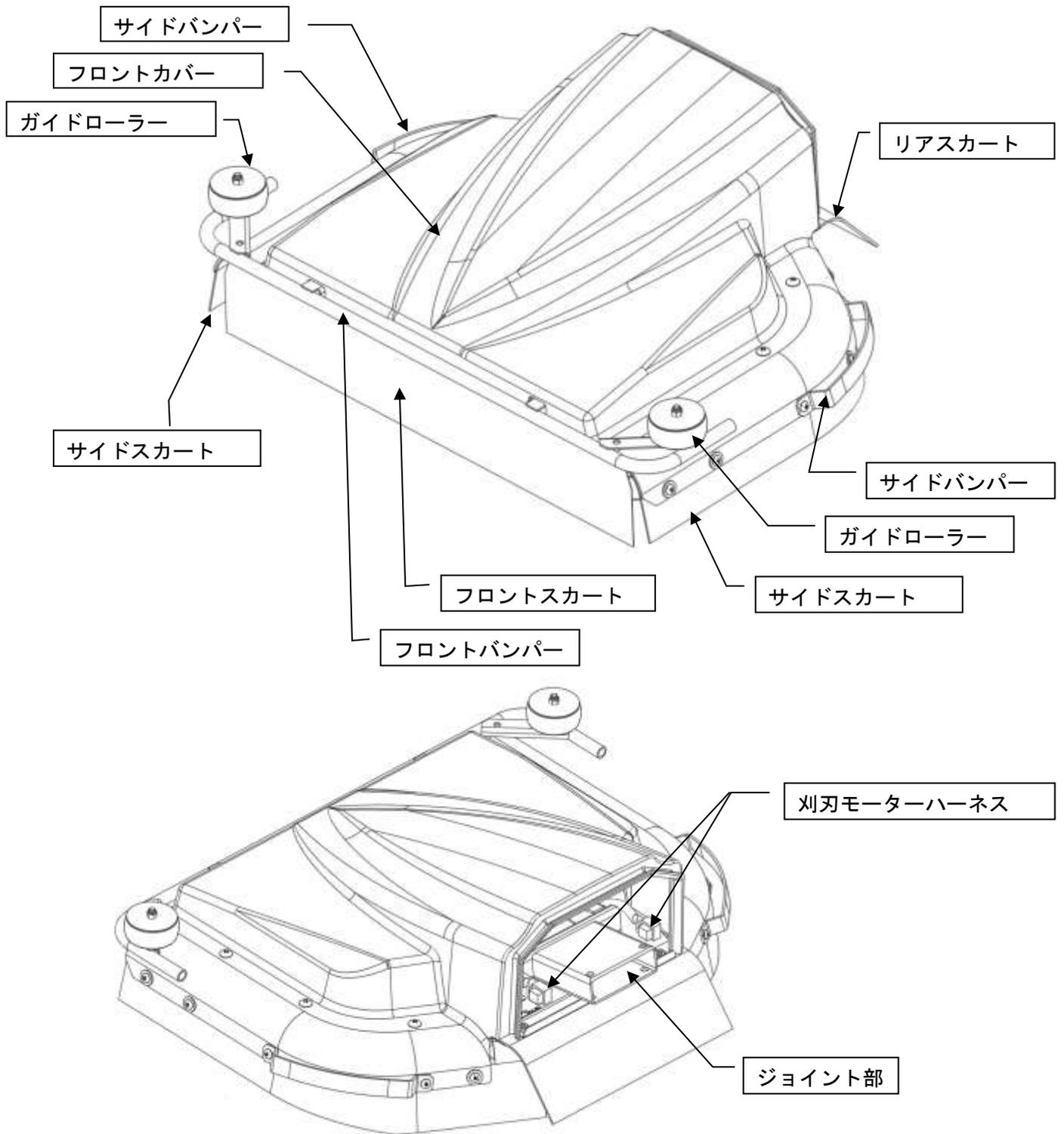
U71-814700-00

⚠ 注意

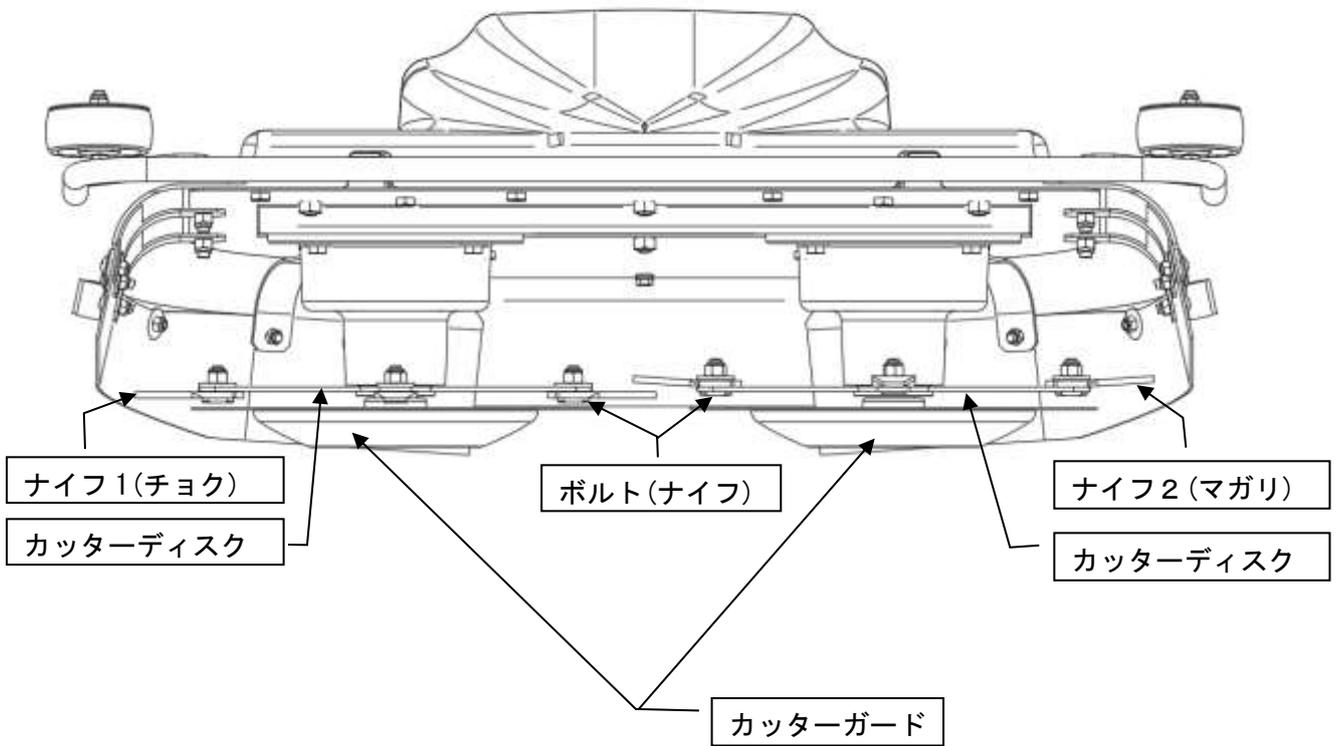
- 安全ラベルは破損したり、はがれた場合は、上記番号・名称にて手配のうえ、貼り直してください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

各部の名称

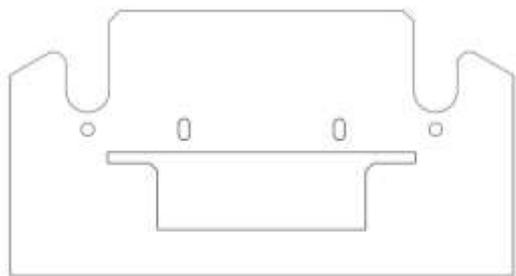
■各部名称



各部の名称



付属部品名



ジョイントプレート



リフトスプリング



リフトプレート



フローティング調整ボルト



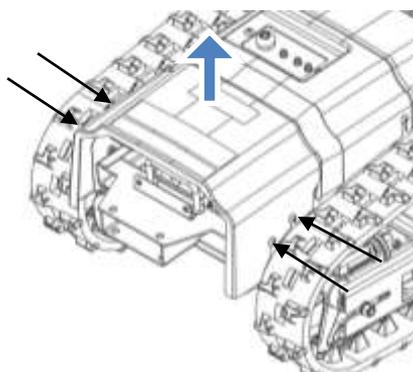
M6トラス小ネジ 2個

取付け方法と運転準備

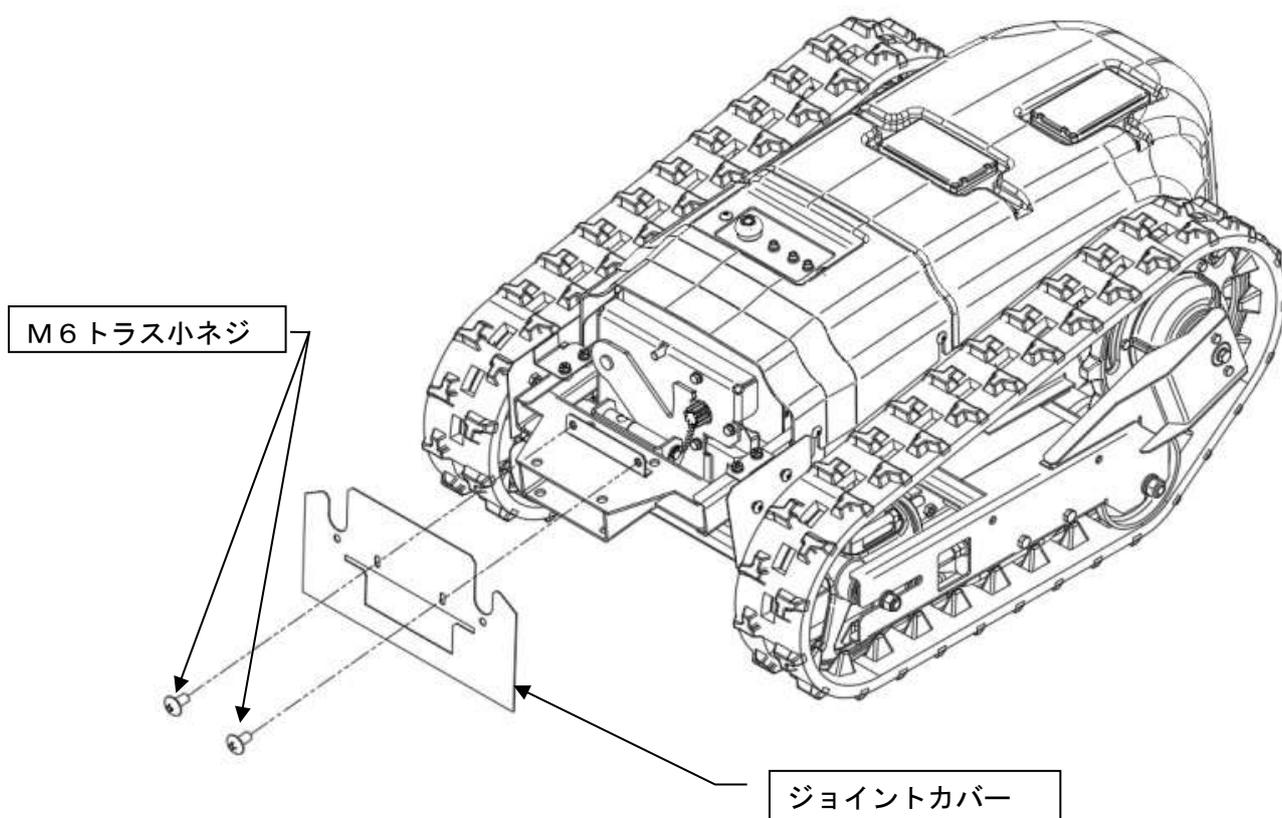
■刈刃ユニットの取付け

用意するもの：+ドライバー（No 3）、グリススプレー

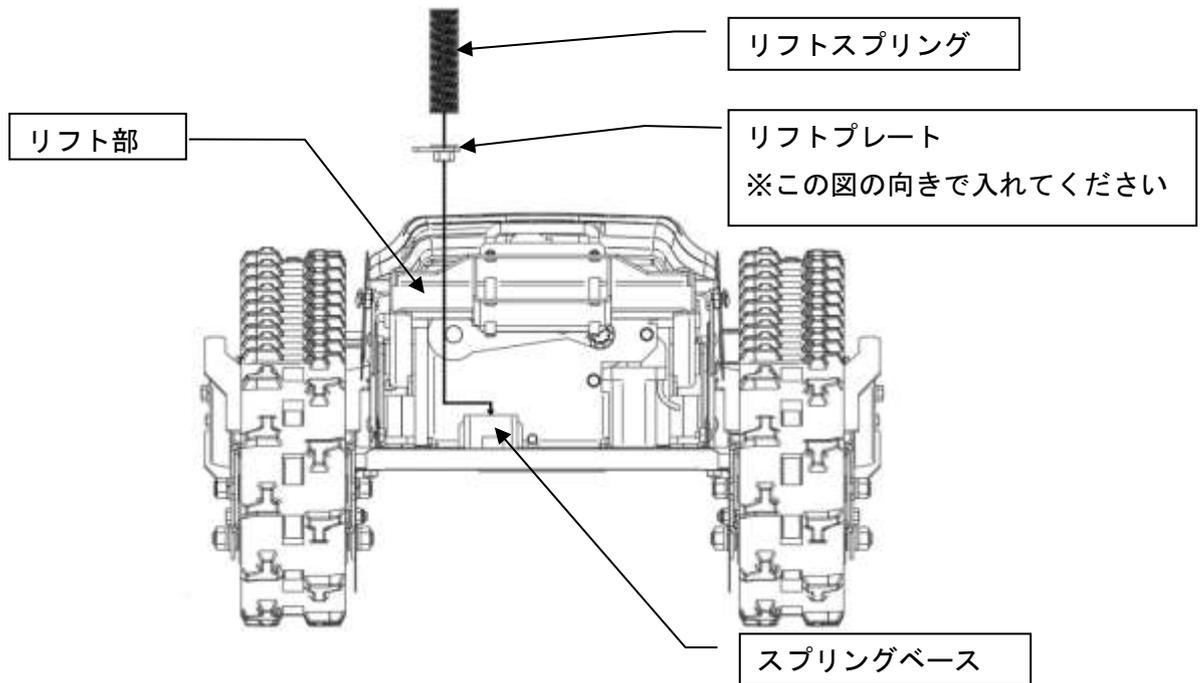
- (1) スマモ本体のカバージョイントを取り外し、ジョイントプレートを取付けてください。ジョイントプレート取付用のM6トラス小ネジは緩まないようしっかりと締め付けてください。



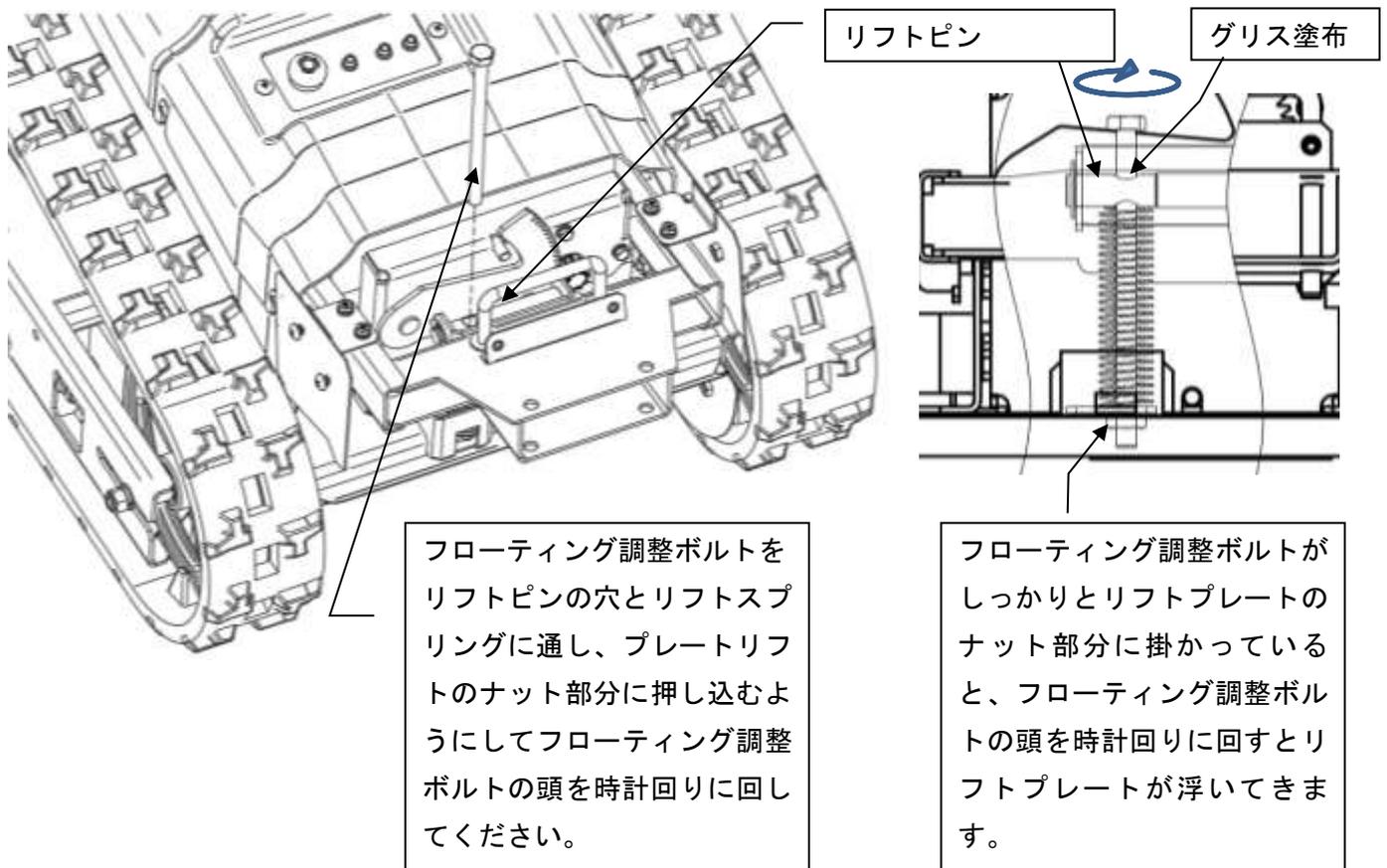
ジョイントカバーを押えているビスを4か所緩めてください。
(取外す必要はありません)
緩めたらジョイントカバーを上方向に引き抜いてください。



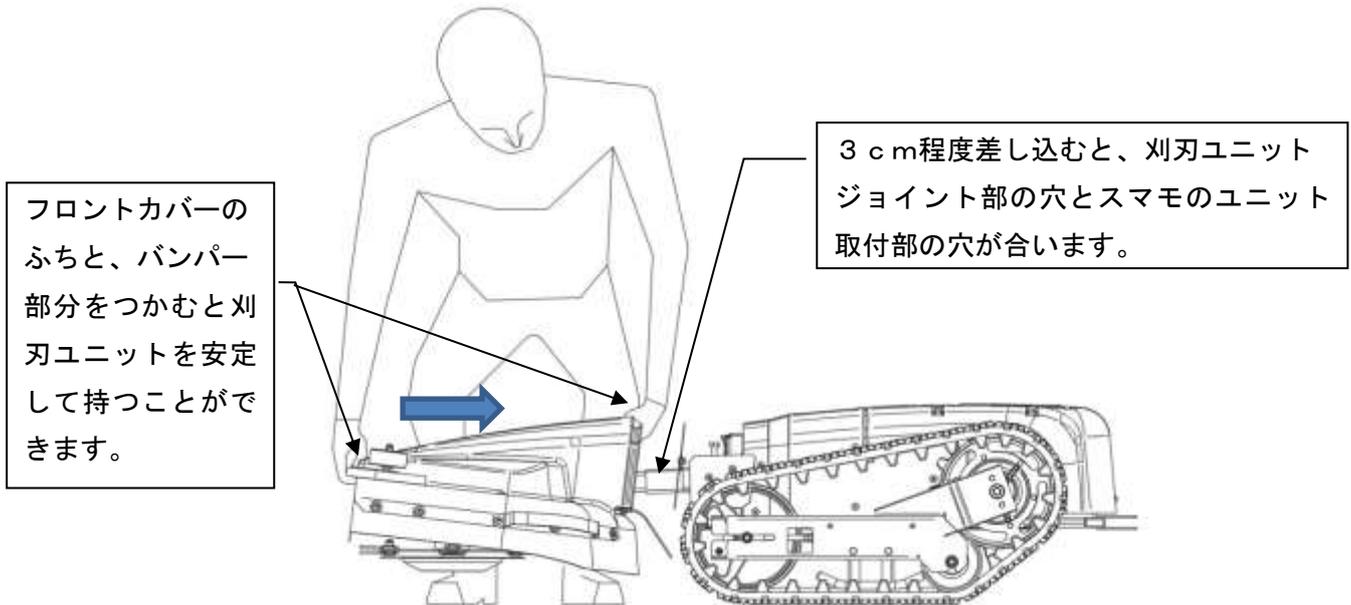
- (2) リフト部を持ち上げると見えるスプリングベースにリフトプレートとリフトスプリングを設置します。



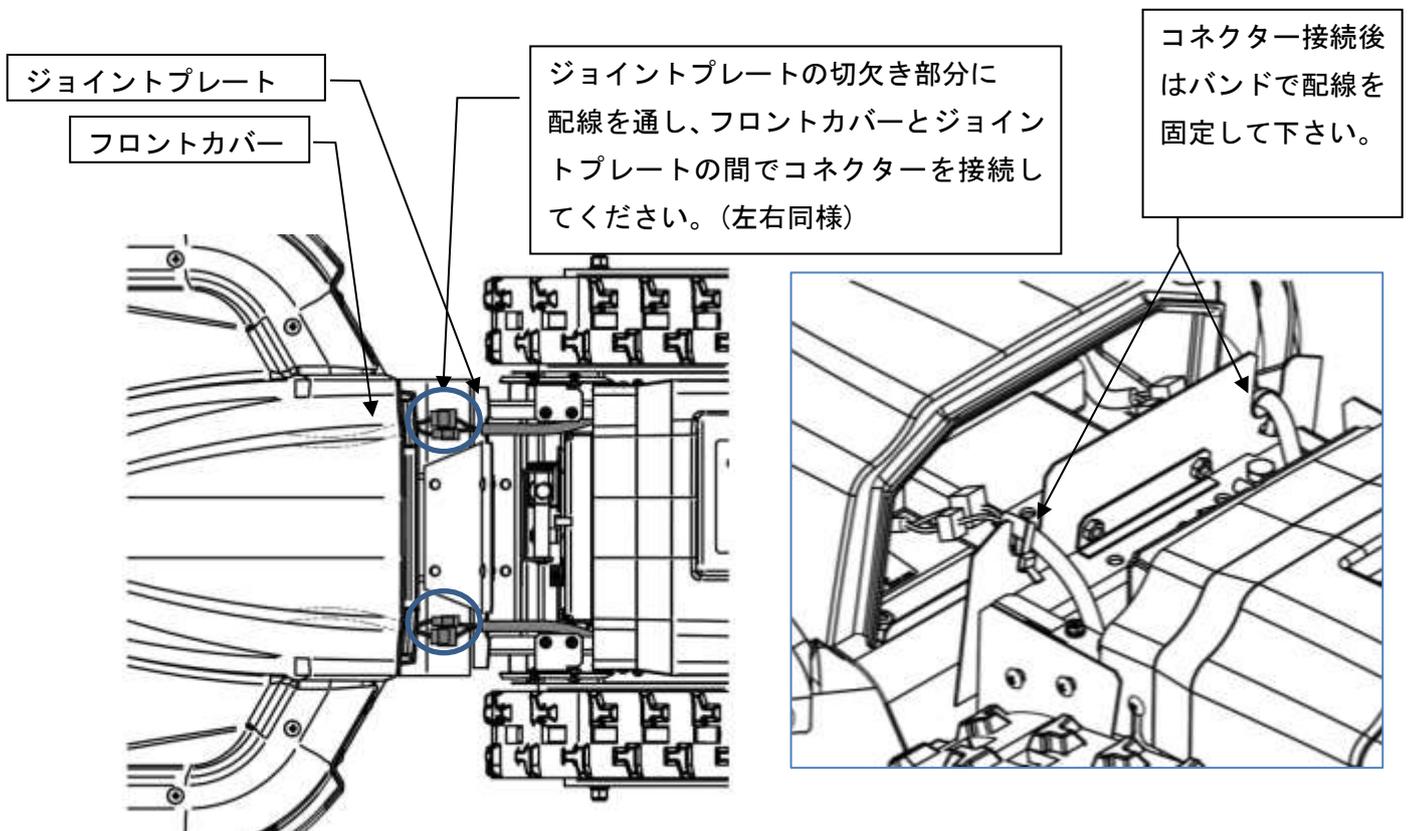
- (3) フローティング調整ボルトを取付けます。取付後はボルトとリフトピンの隙間にグリスプレーを吹きつけ、垂れたグリス等は拭き取ってください。



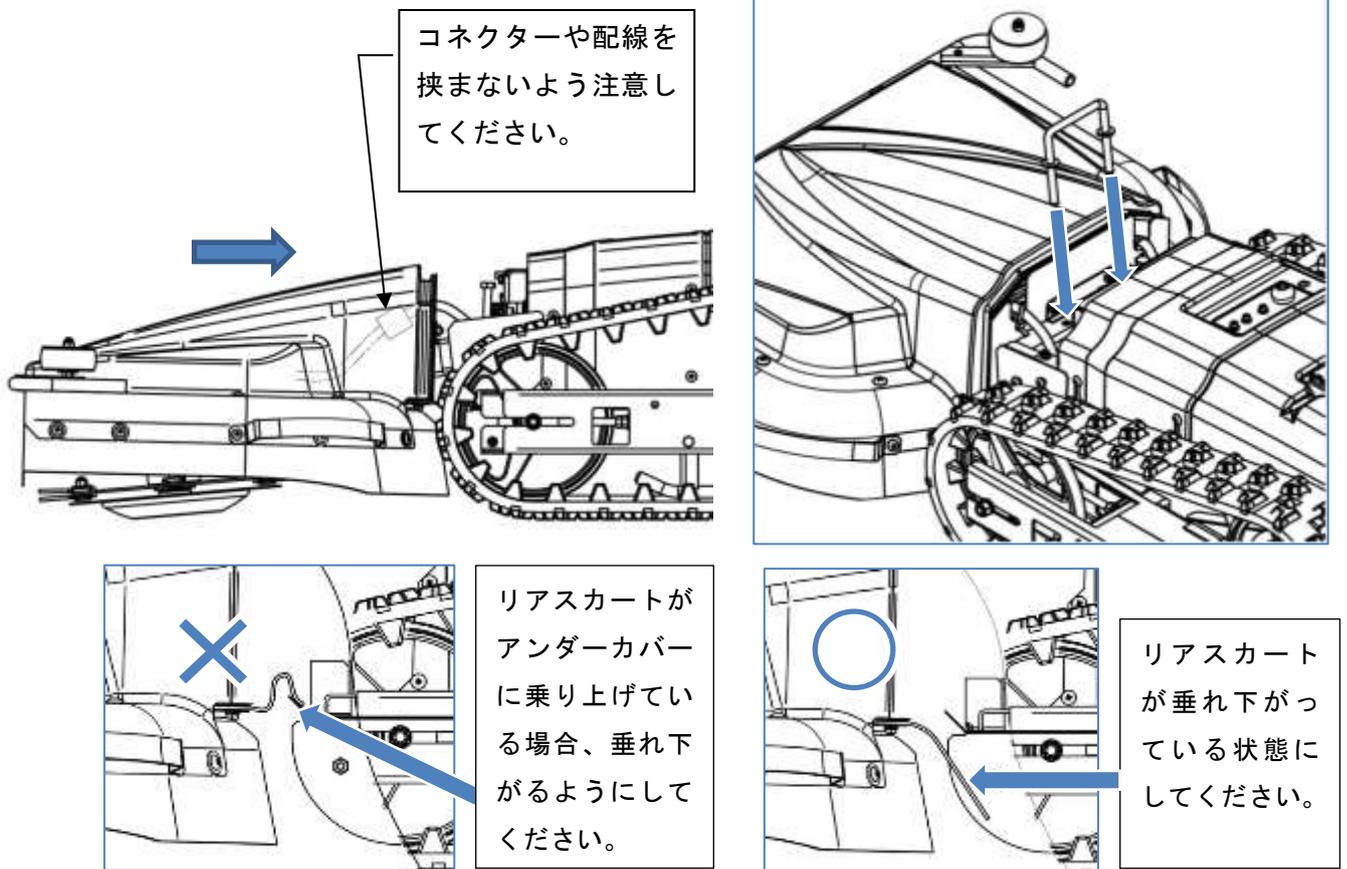
- (4) フローティング調整ボルトの頭を時計回りに回していき、プレートリフトがしっかりと浮いてきたことを確認したら、刈刃ユニットを取付けていきます。
 まず、刈刃ユニットのジョイント部をスマモ本体のユニット取付口に3 cm程度差し込んでください。この時配線を挟み込まないように十分に注意してください。また、手を挟まないように十分に注意してください。



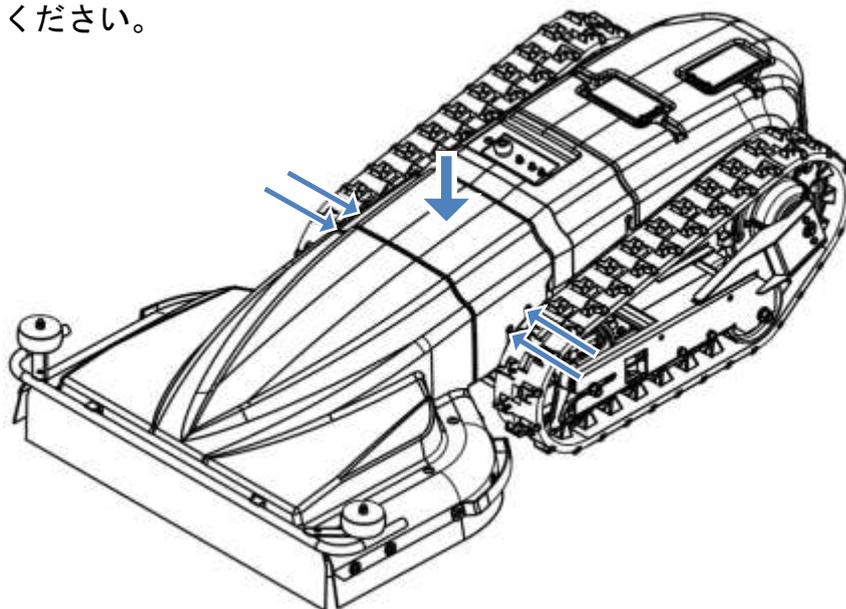
- (5) 刈刃ユニットを一度降ろし、刈刃モーターハーネスのコンネクターと本体の刈刃ハーネスを接続してください。接続後、バンドで配線を固定してください。



- (6) 刈刃ユニットを配線を挟まないように奥まで押し込み、ジョイントハンドルで固定して下さい。押し込む際はリアスカートが折れ曲がったりせず正しい位置になっているかを確認してください



- (7) ジョイントカバーを取付け、4か所のM6トラス小ネジを緩まないようしっかりと締め付けてください。この時フロントカバーとジョイントカバーのラインが合うように組み付けてください。



■ 刈刃ユニットのフローティング調整

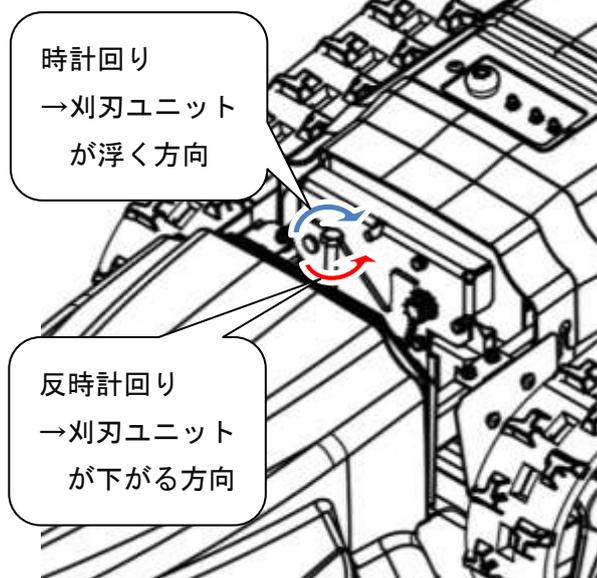
(1) ジョイントカバーを外してください。

(2) フローティング調整ボルトを回すことでフローティング調整ができます。

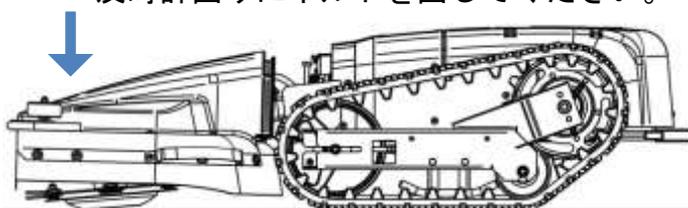
基準位置は刈刃ユニットが浮き始める位置です。

手でボルトを回す際は機体の電源を入れリフト部を上げた状態にしてボルトを回しリフト部を下げて浮き具合を確認してください。

17mmのソケットレンチを使うとリフト部を昇降せずに素早く調整することができます。

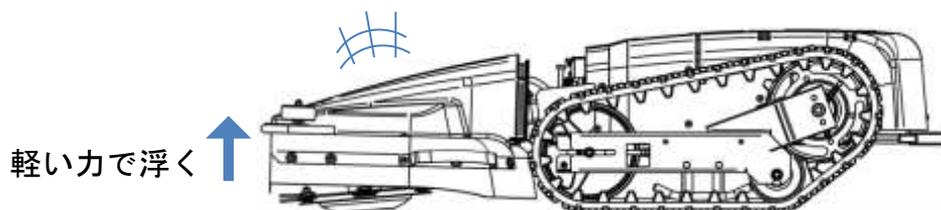


① 完全に刈刃が地面に付く位置まで反時計回りにボルトを回してください。



② 刈刃ユニットが浮き始める位置まで時計回りにゆっくりとボルトを回してください。少しでもカッターガードが地面から離れてしまったら、ちょうど地面にカッターガードが付く位置までボルトを反時計回りに回してください。

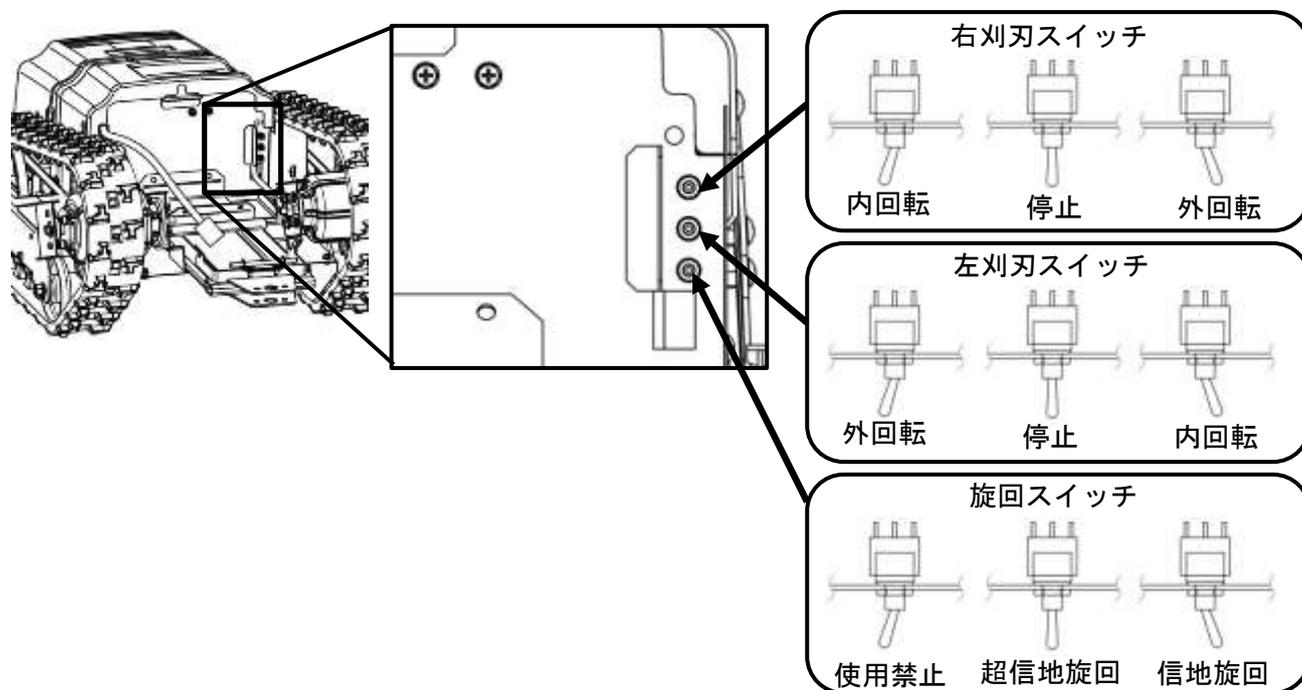
浮き始めた位置で刈刃ユニットを手で持ち上げ、軽い力でユニットが浮くことを確認してください。



(3) 調整が終了したらジョイントカバーを再度取付けてください。

■ 刈刃回転方向の設定

- ・ 刈刃回転方向設定スイッチはスマモ本体側のドライバベース側面にあります。

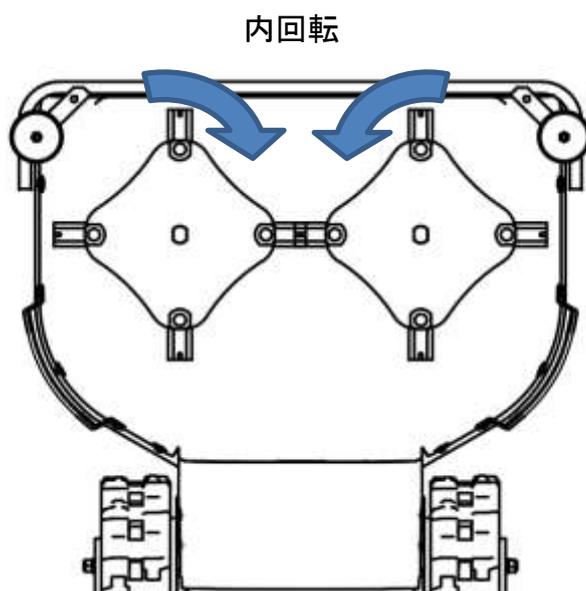


- ・ 草刈り作業は基本的に右左共に内回転で行ってください
スイッチの設定は上から

右刈刃スイッチ：内回転(スイッチが左側に倒れている状態)

左刈刃スイッチ：内回転(スイッチが右側に倒れている状態)

旋回スイッチ：超新地旋回(スイッチが中間位置の状態)



運転方法

■刈刃を回転させる

⚠ 警告

刈刃回転中は絶対に刈刃回りに近づかないでください。回転体に巻き込まれ重傷を負う恐れがあります。また、作業を行う範囲内に作業員以外の人がないことを十分に確認してください。

旋回を行う際は必ず機体の周りから離れてください。

⚠ 注意

走行時・作業時は人が周りにいないことを十分に確認してから移動してください。後進時は後ろに壁、物がないことを確認してから移動してください。

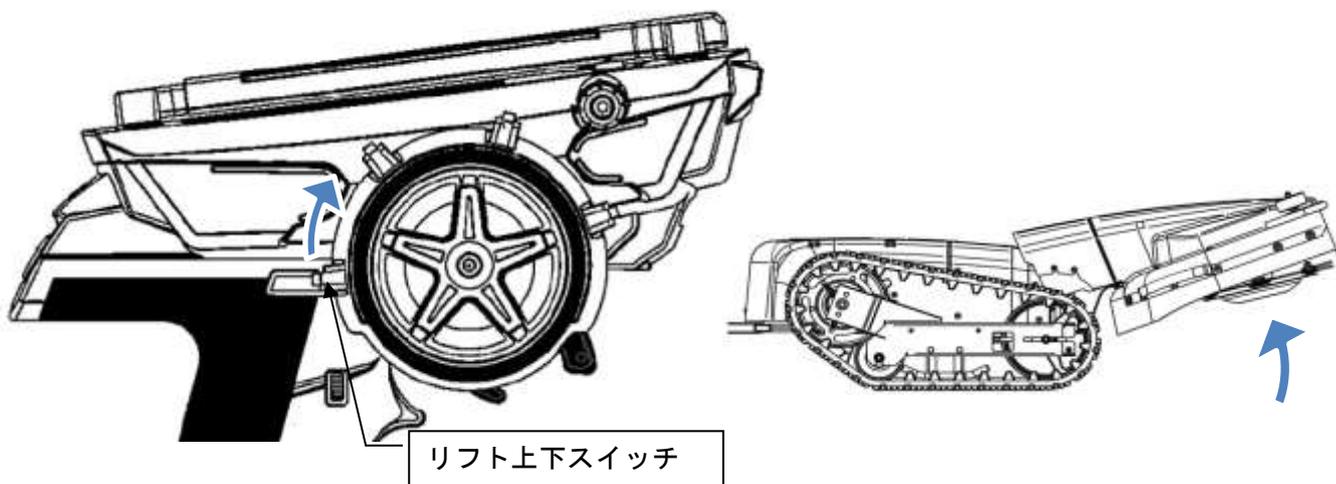
旋回の際は旋回範囲内に立たないでください。

刈刃回転中は石などが飛んでくる恐れがあります。決して刈刃ユニット周りに近づかないでください。

作業時はヘルメットや保護メガネなどの安全具を身に付けてください。

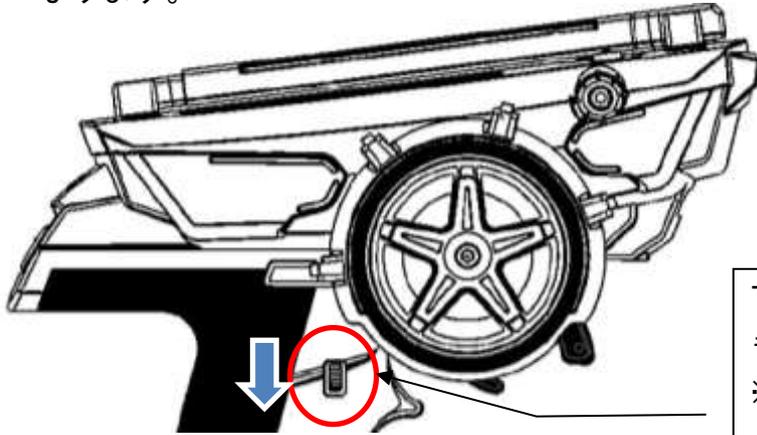
★機体電源の入／切、及び基本的操作方法はスマモ付属の取扱説明書をご確認ください。

- (1) 刈刃を回転させる前にリフト上下スイッチを上側に押し刈刃ユニットを上げてください。刈刃ユニットを下げたまま回転させると草などが絡まり回転が正常に行われずエラーとなる恐れがあります。また、この際に刈刃に草や石など異物が挟まっていないか、刈刃回りに石や角材などが落ちていないか十分に確認してください。



- (2) 刈刃回転スイッチを下方方向に押ししてください。1度押しと刈刃が回転を始めます。もう一度押しと刈刃は停止します。

※連続でスイッチを押さないでください。モーターに熱が溜まりエラーの原因になります。

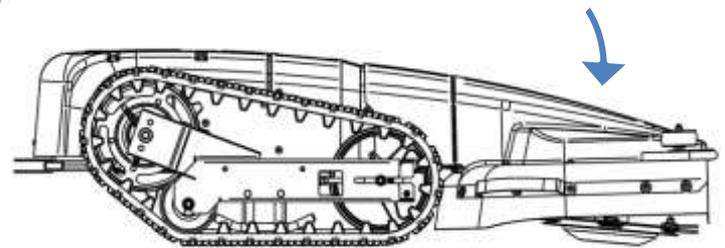
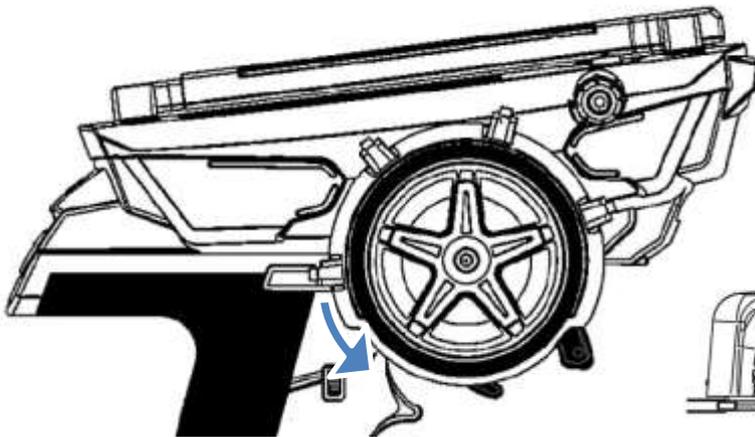


下に押す：回転

もう一度押す：停止

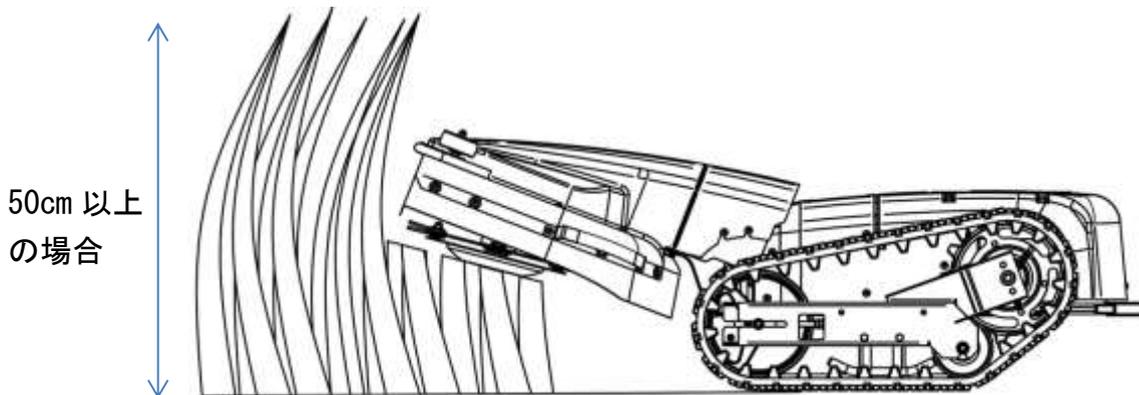
※刈刃ユニットの配線と本体の配線が付いていない場合や配線が断線している場合エラーになります。

- (3) 刈刃回転スイッチを押した後、約 10 秒程度で刈刃の回転が安定します。回転が安定したらリフト上下スイッチを下方方向に押し刈刃ユニットを下げてください。



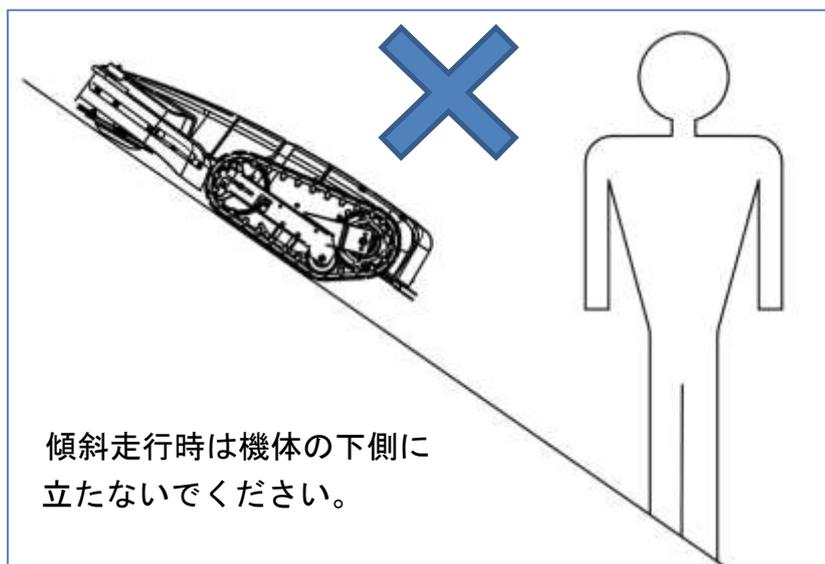
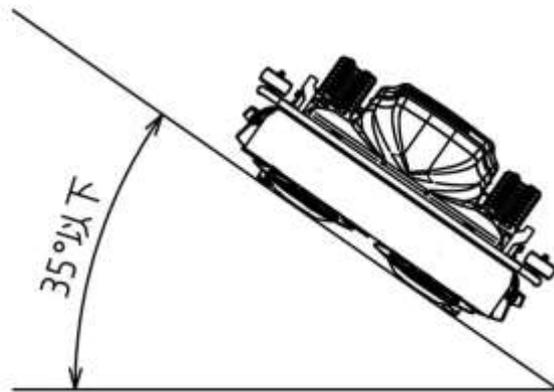
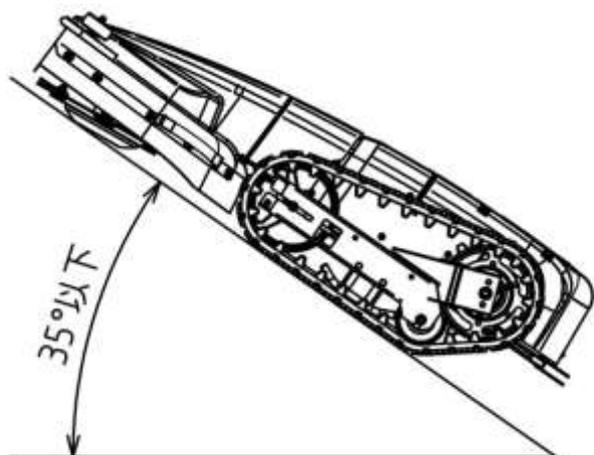
■草刈作業を行う

- ・草刈り作業は草丈が**最大 50cm 以下**の場所で行ってください。50cm を超える草丈の場合刈刃ユニットを上げ、草丈の高い部分を一度刈り、その後刈刃ユニットを下げて残った草を刈取ってください。



- ・刈刃を回転させると安全のため自動で速度上限が 50%に落ちます。速度表示が 100～50%の場合、強制的に 50%の速度になります。50%以下の速度は表示している速度となります。速度を 100～50%の範囲に設定している場合は刈刃回転を止めた際に元の速度に戻るため、注意してください。
- ・草の生えている密度によって速度を調整してください。密集している場合は速度を落とし、逆に密集していない場合は速度を上げると効率よく草刈り作業を行えます。
- ・負荷により刈刃の回転数が落ちた場合は自動で停止して回転数が安定すると再度走り始めます。動作異常ではなくモーターの負荷を軽減させる制御です。負荷で止まった場合は一度後進するか、刈刃ユニットを上げると回転数の復帰が早くなります。
- ・進行方向に大きい石や切株等があると刈刃がぶつかり草を刈っている時よりも大きい音が発生します。負荷が大きい場合は安全装置が働き停止しますが、負荷が少ない場合は回り続けます。その際はあわてずに一度後進し、異物を取り除くか、切り株などのような除去できないもの場合は避けて作業を行ってください。異物を取る際は刈刃回りに近づかないでください。

- ・刈刃ユニットを搭載した際は最大 35° までの傾斜地で作業を行うことができます。ただし、部分的に凹みがあり 35° 以上になるような場合や、地面が緩い状態、ぬかるんでいる場合は転倒の危険があります。作業姿勢を見ながら危険と判断した場合は機体から離れて一度作業を停止し 35° 以下の場所へ低速で移動するか、コントローラーと本体の電源を切り、手で引っ張って移動してください。また、傾斜地での作業は低速で行い急発進や急停止を行わないでください。

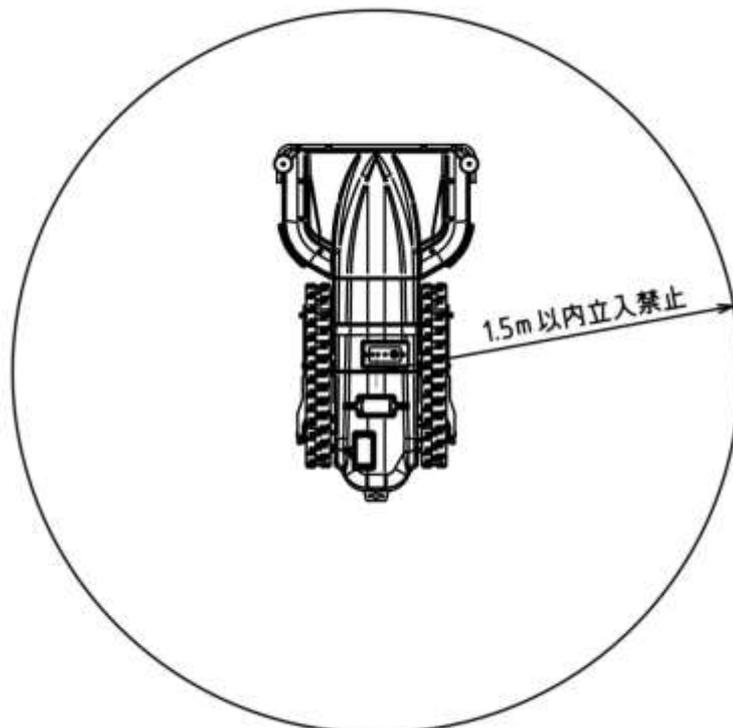


・ 作業時の立ち位置

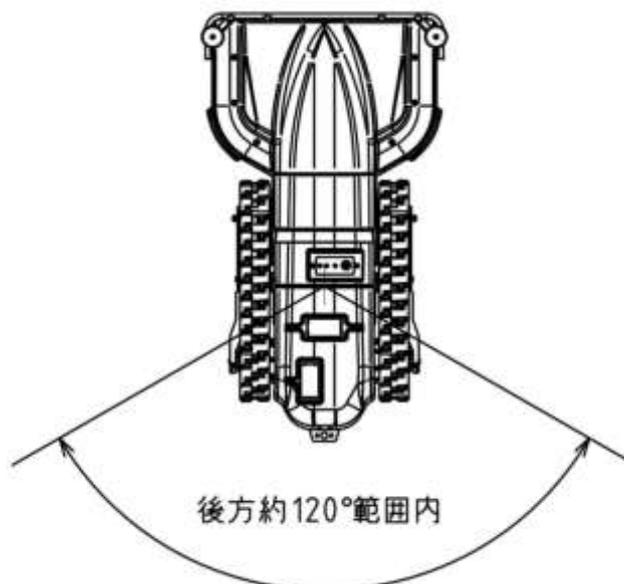
草刈作業時は以下の範囲内に入らないように作業を行ってください。

止むを得ず立入禁止範囲に入らなくてはならない状況の場合、刈刃の回転を停止させるなど安全を十分に確保し範囲内に入るようにしてください。

- ① 機体の中心(ドライバカバーとリアカバーの繋ぎ目付近)から 1.5m以内に入らないでください。



- ② 機体後方の約120°の範囲内に立ち作業を行ってください



点検・整備

●定期点検を行うようにしましょう



使用前点検、定期点検を必ず行ってください。

点検・整備は必ず電源を OFF にし、電源コネクタを抜いてから行ってください。

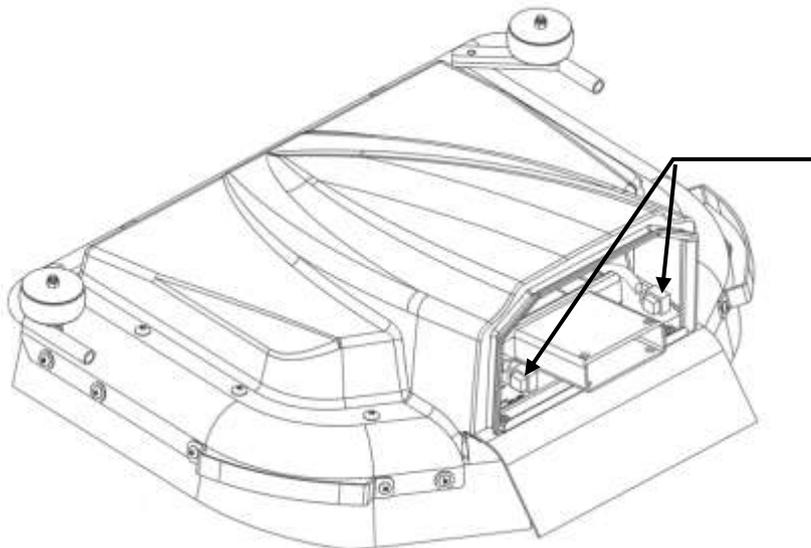
定期点検表

点検項目	シーズンごと		
	作業前点検	作業シーズン初め	作業シーズン終わり
配線等の破損・断線	○		
刈刃回りの異物(土・草)挟まり	○		
各種スイッチの作動	○		
消耗部品の状態確認	○		
各部締め付け	○	○	○
ピン・シャフト類へのグリス塗布	(○)	○	○

点検・整備方法と確認箇所

■配線等の外れ・破損・断線の確認

下図に示すカ所の配線を点検してください。

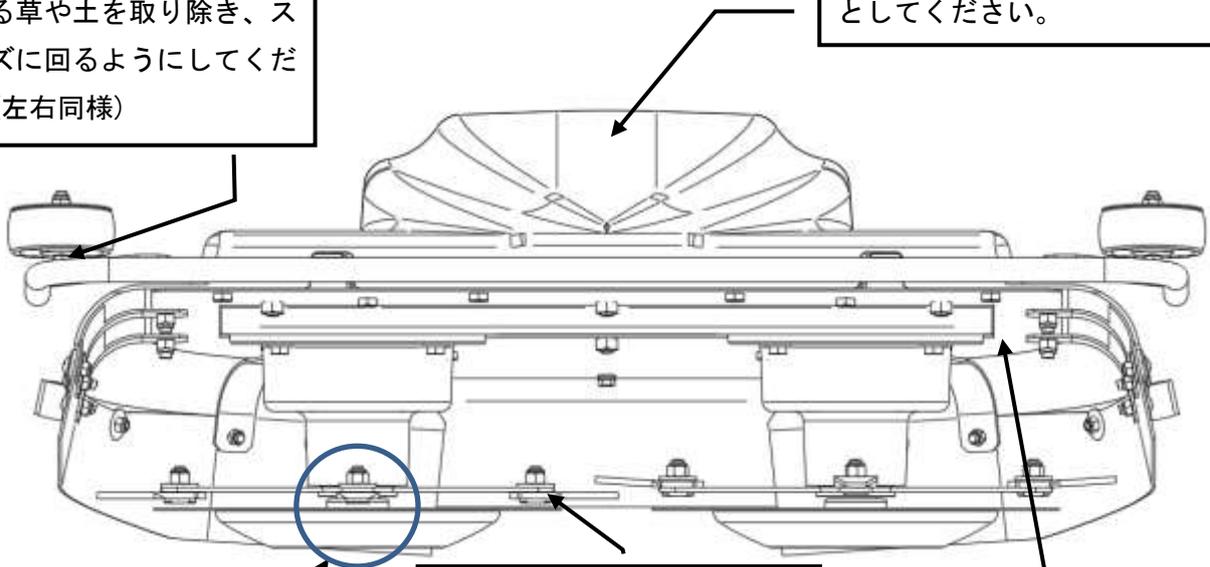


刈刃モーターハーネス部
→コネクター内部の端子は外れていませんか？
→コネクターの爪が折れていたりコネクターが割れていませんか？
→配線にキズや断線している箇所はありませんか？

■異物(土・草など)の確認と清掃方法

ガイドローラーの間に挟まっている草や土を取り除き、スムーズに回るようにしてください(左右同様)

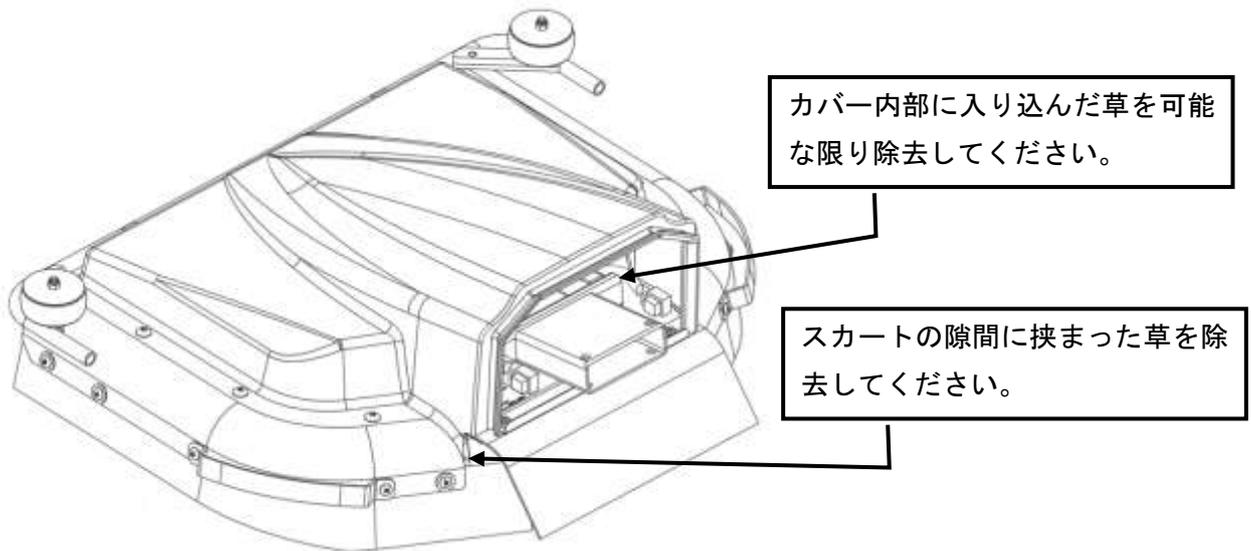
カバー上面の土・汚れを落としてください。



軸部に草の絡みや石や土の挟まりがある場合、除去してください。(左右同様)

ナイフとカッターディスク、ワッシャーの間に草の絡みや土が詰まっている場合、除去し、スムーズにナイフが回るようにしてください。(左右同様、全8カ所)

カバー内部や各種スカートに付着している草や土を除去してください。



★ 機体の水洗いについて

本機は水洗い可能となっております。バッテリーを外し、刈刃ユニットをスマモ本体に取り付け、全てのカバーを付けた状態でホースによる放水にてクローラー回りやカバーの表面の汚れや刈刃内部の土・草を落としてください。水洗後は十分に水滴を拭き取ってください。

バッテリーは必ず電源を切り、しっかりとしぼったきれいな布で水拭きしてください。

コントローラーは防水ではない為、水洗いは厳禁です。汚れがひどい場合は水または中性洗剤をしみこませたきれいな柔らかい布をしっかりとしぼり拭いてください。

ただし、以下の点に気を付けてください。

- ・水洗前は本機からバッテリーを取り外してください。
- ・水洗後にバッテリーを接続する際はコネクタ内部の水分を十分に除去してから接続してください。
- ・本機は完全防水ではなく機体表面側からの水の侵入を防ぐ仕様となっております。そのため高圧洗浄機等で清掃すると電装部に水が浸入し故障する恐れがあります。高圧の水流を発生させるものの洗浄は行わないでください。
- ・カバーはすべて取り付けられた状態で水をかけてください。
- ・水洗後に刈刃を回転させる際は一度刈刃ユニットと本体をつなぐコネクタ内部に水が付着していないか十分に確認してください。付着していた場合は確実に拭き取ってください。ショートがあります。

■各種スイッチの確認

作業前はスマモ本体付属の取扱説明書に記載している各種スイッチの確認に加え、以下の各スイッチが正常に作動するか確認してください。走行や刈刃を回転させるときは回りに物や人がいないことを確認し、安全が確保された状態でスイッチの確認を行ってください。

正常に作動しない場合は作業をやめ、販売店へご相談ください。

① リフト上下スイッチ

刈刃ユニットを搭載した状態でリフト上下スイッチを押し、しっかりとリフト部が上下するか確認してください。

② 刈刃回転スイッチ

開けた場所で刈刃ユニットを上げた状態で刈刃回転スイッチを一度押し、回転することを確認してください。また、回転が安定したらもう一度刈刃回転スイッチを押し、刈刃の回転が停止することを確認してください。

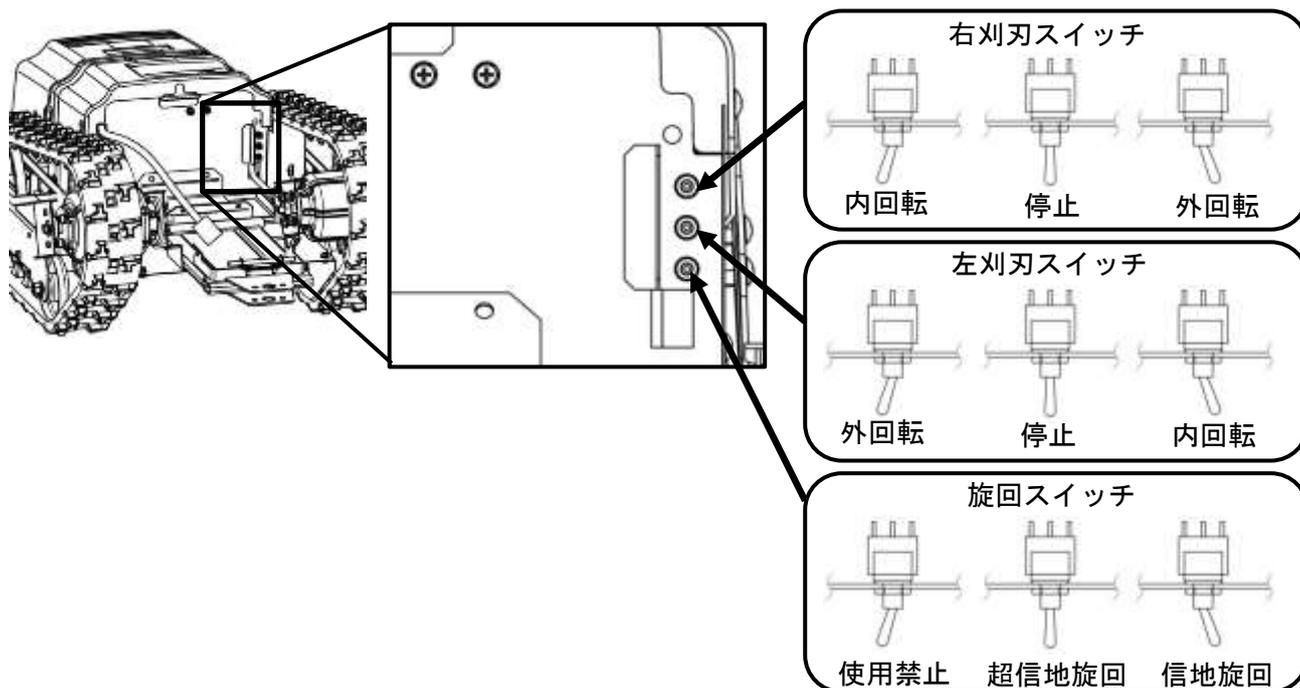
③ 非常停止スイッチ(本体側)

開けた場所で速度 30%で走行し、刈刃を回転させた状態で非常停止スイッチを押し、機体の動作が全て停止し、コントローラーによる操作を受け付けないことを確認してください。

確認後は一度機体の電源を切り、非常停止スイッチを時計回りにひねり、非常停止状態を解除してから再度電源を ON にしてください。

④ 設定スイッチ(本体側)

刈刃ユニットを取付けた際は右刈刃及び左刈刃の設定が内回転になっているか確認してください。また、旋回スイッチも基本的に超信地旋回位置になっているか確認してください。



■ 消耗部品の状態確認

①：フロントスカート

→切れや破れが発生した場合
交換してください。

②：サイドスカート

→切れや破れの発生及びカバー
からの長さが側面側40mm以下
もしくは後方側58mm以下に
なった場合交換してください。

③：リアスカート

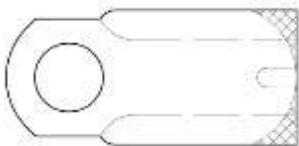
→切れや破れの発生及び、伸ばした
際にプレートから115mm以下の場合
交換してください。

④：ナイフ1(チョコ)

⑤：ナイフ2(マガリ)

→先端が丸くなり打刻まで削れてきた
場合、左右の刈刃を入れ替えるか、
交換してください。

左右の刈刃入れ替えは「刈刃の交換」
の項をご確認ください。

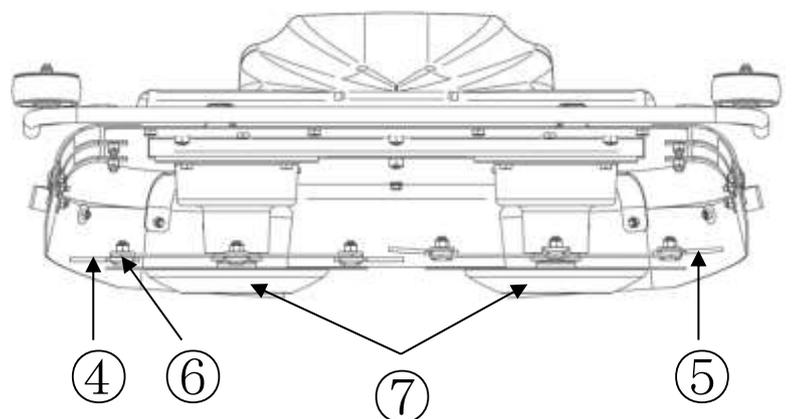
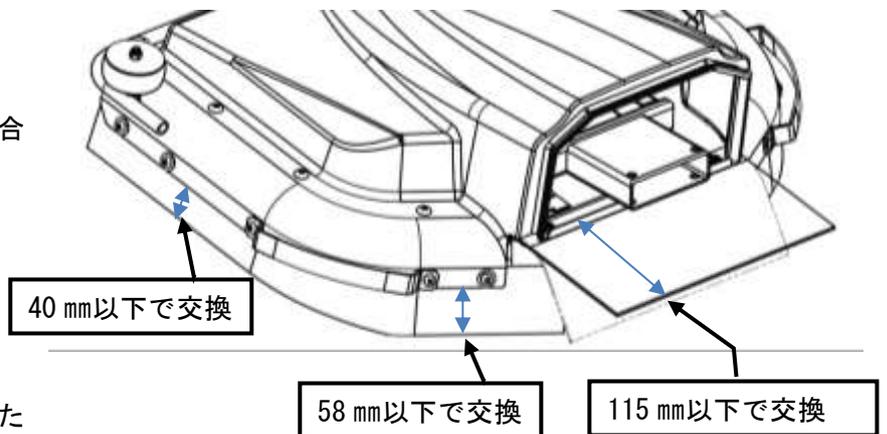
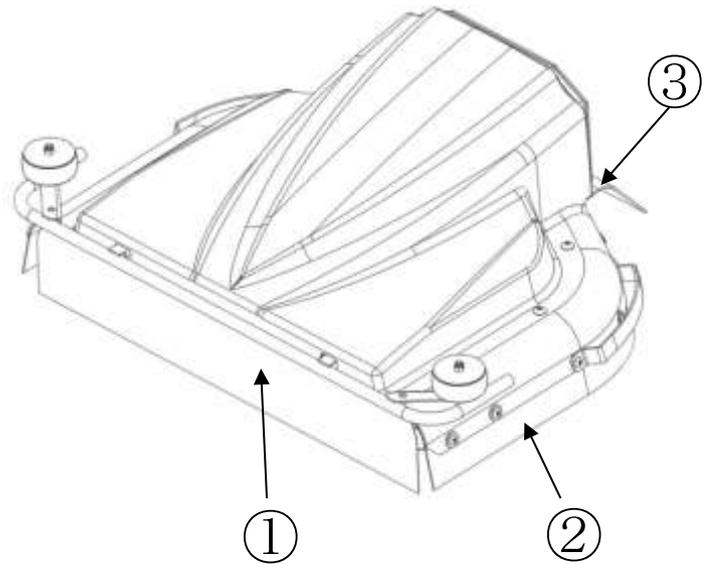


⑥：ボルト(ナイフ)

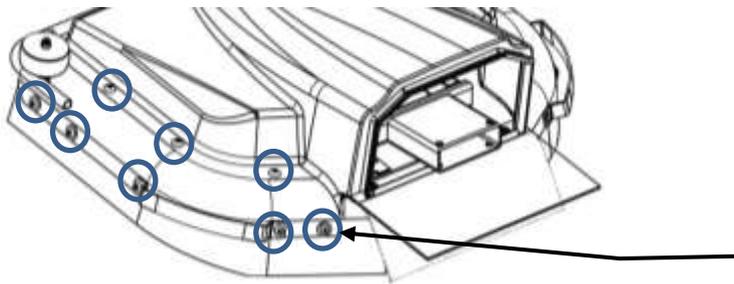
→削れが発生し17mmのスパナで
つかめなくなった場合交換して
ください。

⑦：カッターガード

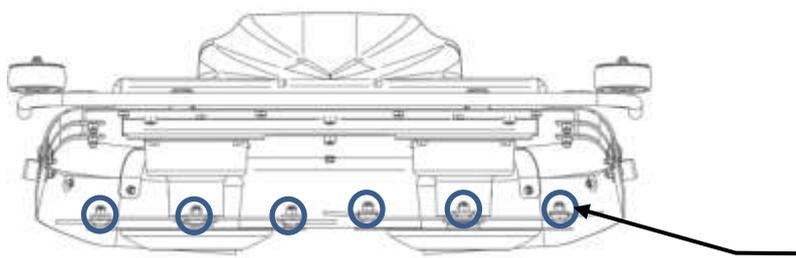
→削れが発生し、穴が開いたり変形
した場合交換してください。



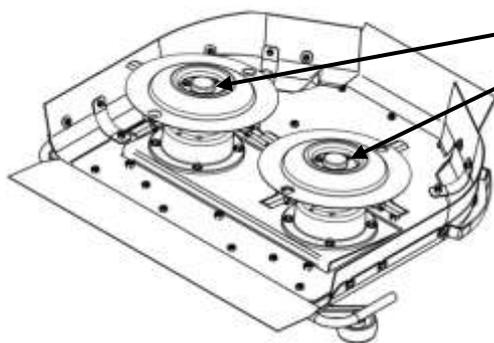
■各部締め付け



カバー取付部のトラス小ネジ
各種に緩みがないか確認して
ください。特に側面部はサイド
スカートと共締めしてあるた
め、緩むとスカートの外れ・破
損に繋がります。(左右同様)



ナイフ取付部のボルトに緩み
がないか確認してください。
(全8カ所同様)



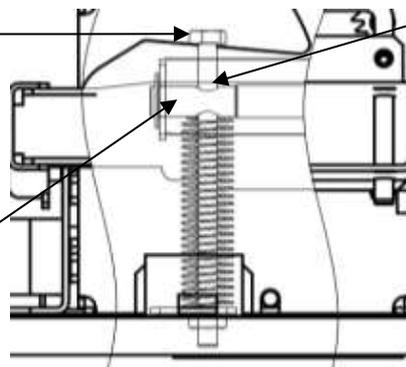
カッターガード取付部のM6
ボルトに緩みがないか確認し
てください。(左右6カ所)

■ピン・シャフト類へのグリス塗布

※刈刃回りはグリス塗布不要です。グリスを塗布すると土の付着の原因となります

フローティング調整ボルト

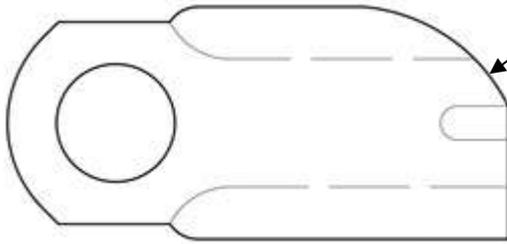
リフトピン



テンション調整ボルトと
リフトピンの隙間にグリス
塗布してください。
余分なグリスは拭き取っ
てください。

■ 刈刃の交換

ナイフが摩耗してきた際は右刈部と左刈部のナイフを入れ替えることでナイフを再利用できます。
ナイフの交換は1枚ずつ交換する方法と、カッターディスクごと交換する方法があります。



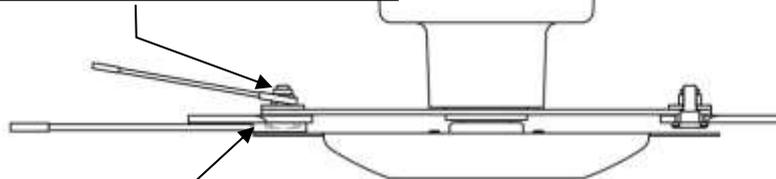
ナイフが摩耗して角がなくなり、打刻位置まで削れてしまった場合は左右の刈刃を入れ替えることで、反対側の刃を使用することができます。

● 1枚ずつ交換する方法

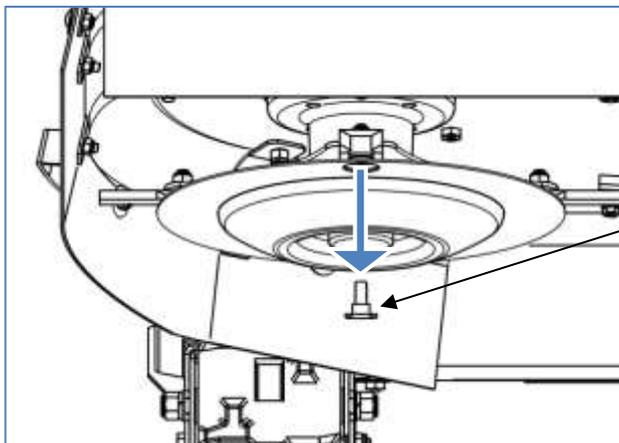
用意する工具：平スパナ（12 mm 1本、17 mm 1本）

- ・ 刈刃ユニットをスマモ本体に取り付けたままリフトを最大まで上げてください
- ・ 本体とコントローラーの電源を切り、ボルト(ナイフ)の頭に17 mmのレンチをかけ、ナイロンナットを12 mmのレンチで反時計回りに緩め、外してください。

12 mmの平スパナでナイロンナットを反時計回りに回して外してください。



17 mmの平スパナでボルト(ナイフ)の頭をおさえてください。

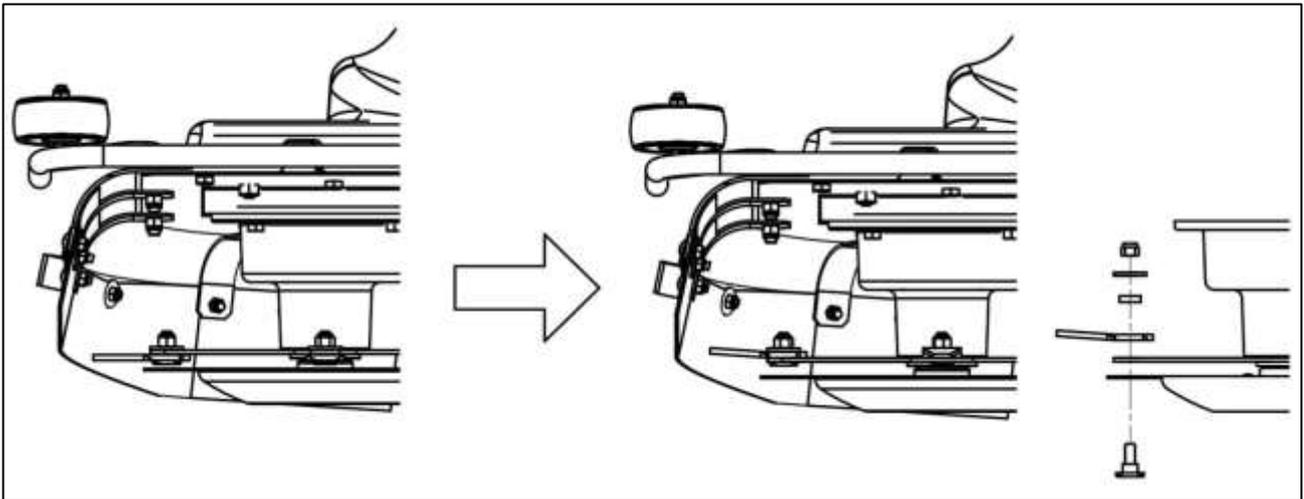


ナットを取り外したらボルト(ナイフ)をカッターガードの穴を通して外してください。この時、ボルトについているカラーやナイフがカッターガードの皿部分に落ちないように気を付けてください。

・右刈部と左刈部の刃を交換し、元の組み方と同様に再度組み付けてください

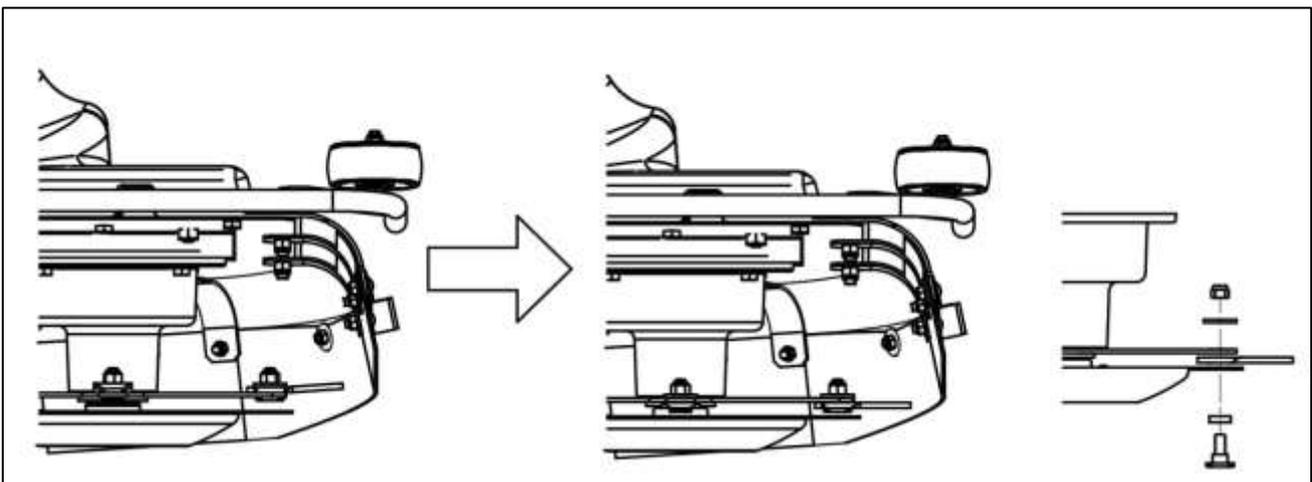
→右刈刃側

カッターディスク下側からボルト(ナイフ)を入れ、カッターディスク上面側に出てきたボルト(ナイフ)にカラー、ナイフ2(マガリ)、M8木エザガネ、M8ナイロンナットの順に組付け、12mmと17mmの平スパナで緩めた時と同様にボルト(ナイフ)の頭とナイロンナットをつかみ、ナイロンナットを時計回りに回して締め付けてください。



→左刈刃側

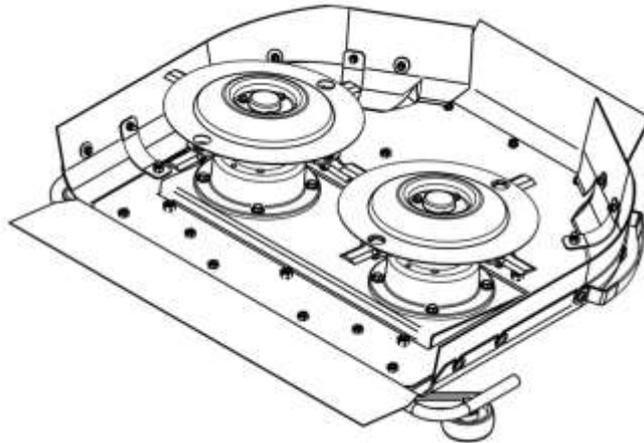
ボルト(ナイフ)にカラーを付けた状態でカッターディスク下側からナイフ1(チョコ)を通してボルト(ナイフ)を入れ、カッターディスク上面側に出てきたボルト(ナイフ)にM8木エザガネ、M8ナイロンナットの順に組付け、12mmと17mmの平スパナで緩めた時と同様にボルト(ナイフ)の頭とナイロンナットをつかみ、ナイロンナットを時計回りに回して締め付けてください。



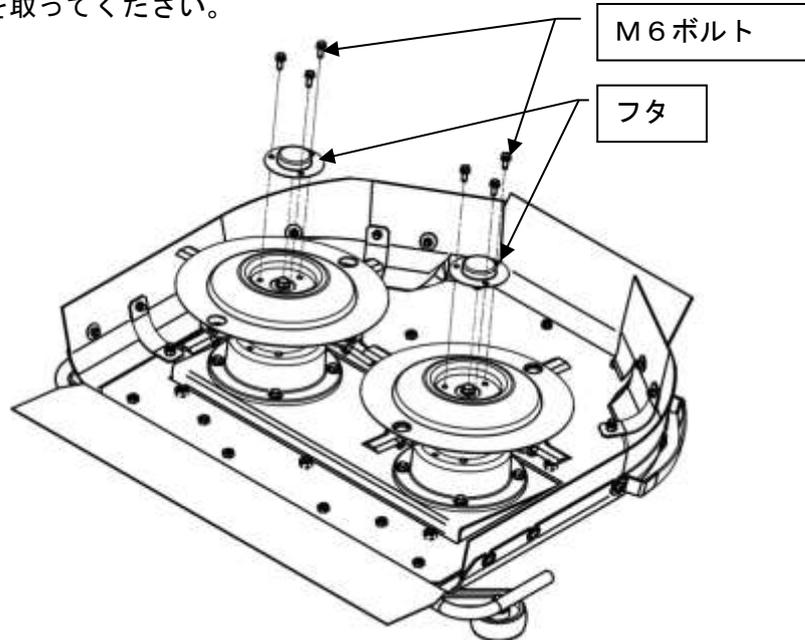
●カッターディスクごと交換する方法

用意する工具：ソケットレンチ(10mmソケット)、メガネレンチ 22mm

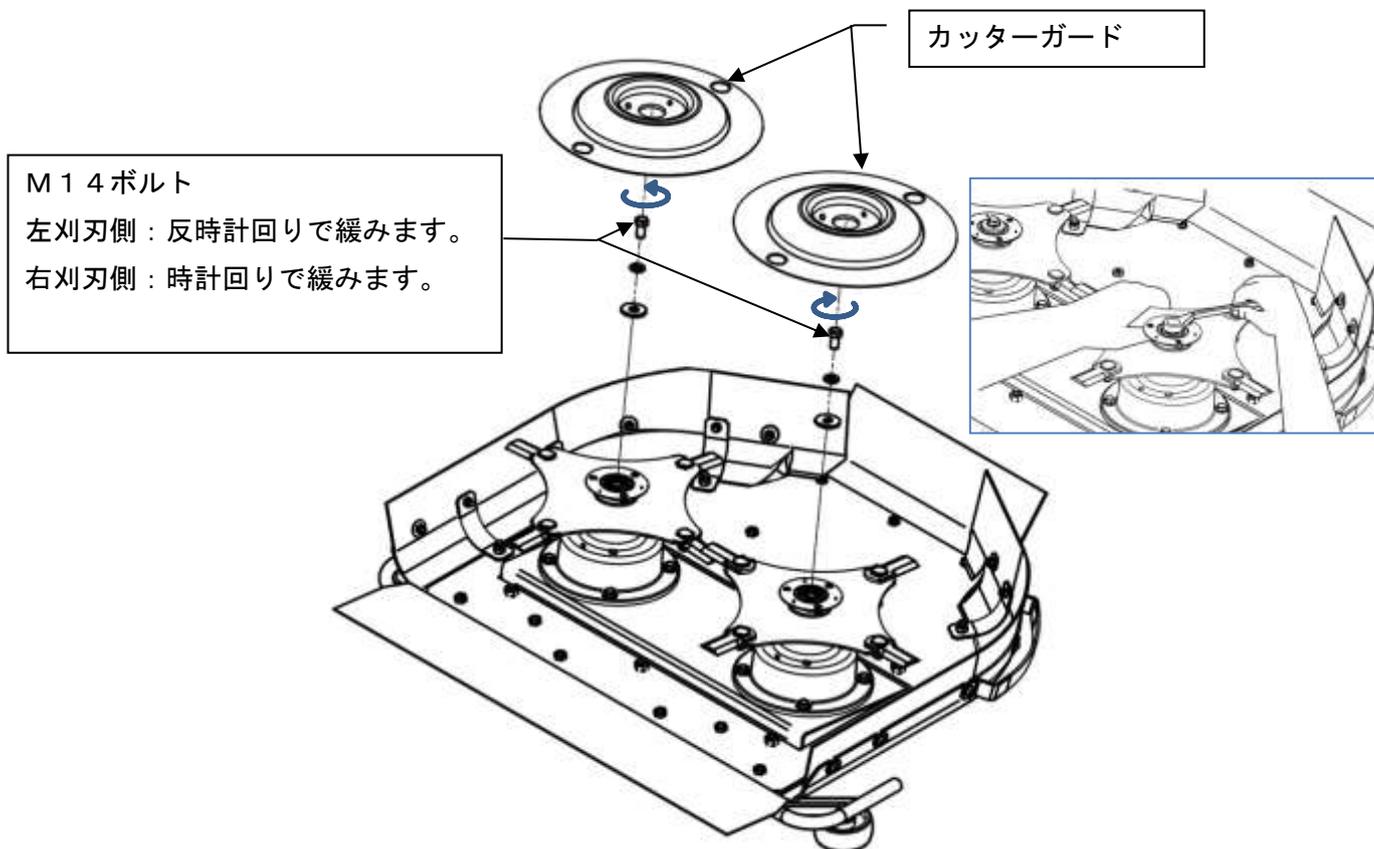
- ・刈刃ユニットをスマモ本体から取り外し逆さまにして置いてください。逆さまにする際はカバーにキズが付かないよう厚めのダンボールかクッション材の上においてください。



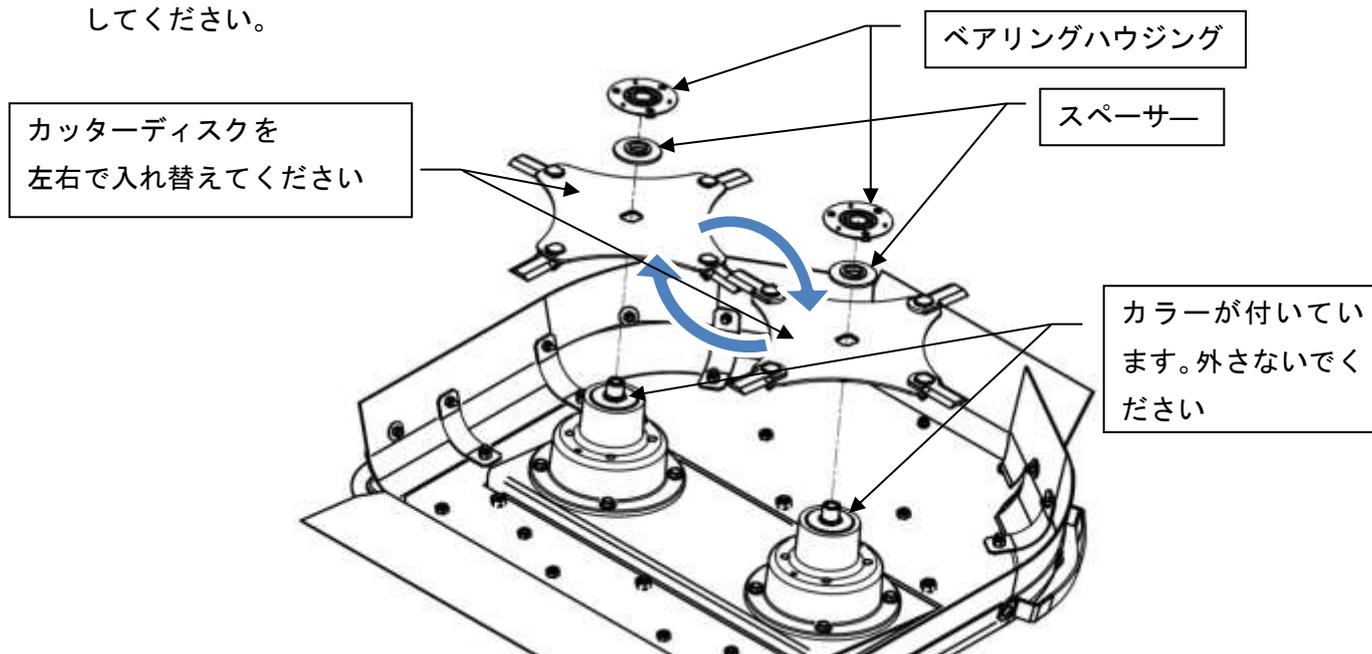
- ・10mmのソケットレンチでカッターガード中心部の3か所(左右合わせて6か所)のM6ボルトを取り外して、フタを取ってください。



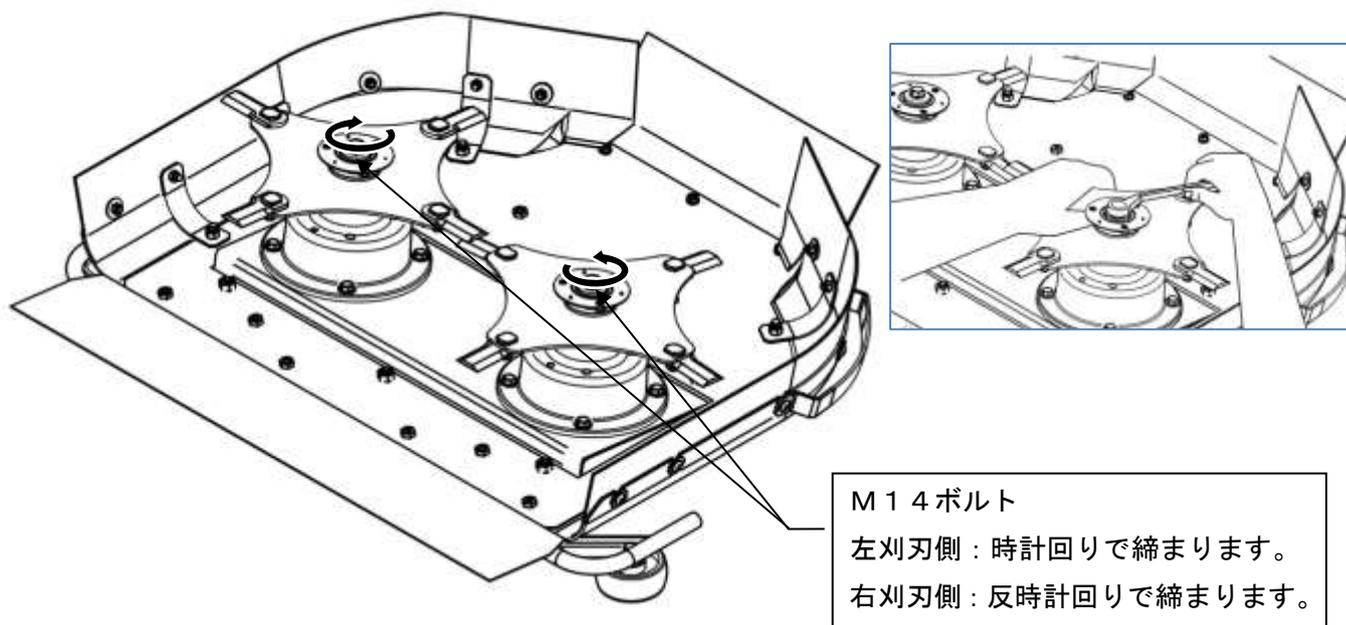
- ・カッターガードを外し 22 mm のメガネレンチを使用して軸端の M 1 4 ボルト (バネ座金、平座金) を外してください。外したバネ座金、平座金は左右で混ぜずに、外したボルトとセットで使用してください。M 1 4 ボルトは左右で緩ませる向きが異なります。ボルトを緩める際はカッターディスクを片手でしっかりと握りもう片手でレンチを使用して緩めてください。



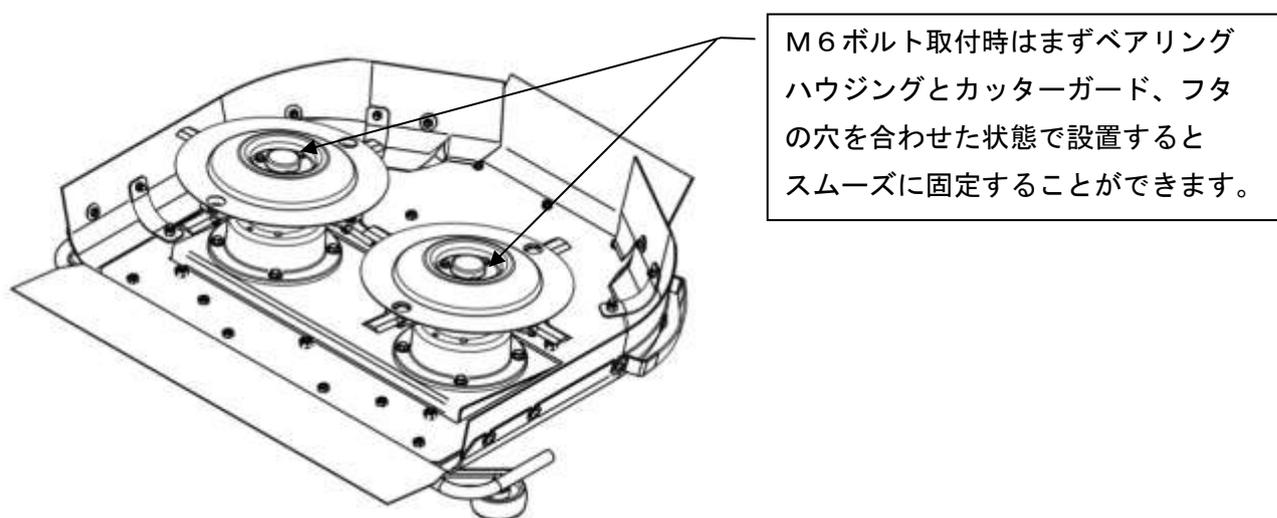
- ・ベアリングハウジングを抜き取り、スペーサーとカッターディスクを取り外し、カッターディスクを左右で入れ替えてください。入れ替える際、カッターディスクを裏返しに取り付けない様に注意してください。



- ・ 左右でカッターディスクを入れ替えたら再度、スペーサー、ベアリングハウジングの順に組付け、軸端に平座金、バネ座金、M 1 4 ボルトの順で組んで固定してください
締付の際は緩める予期と同様にカッターディスクを片手でしっかりと握りもう片手でレンチを使用して締めてください。M 1 4 ボルトは緩まないようしっかりと締めてください。



- ・ 最後にカッターガードと蓋を取付けM 6 ボルトを左右合わせて 6 か所締め付けてください。

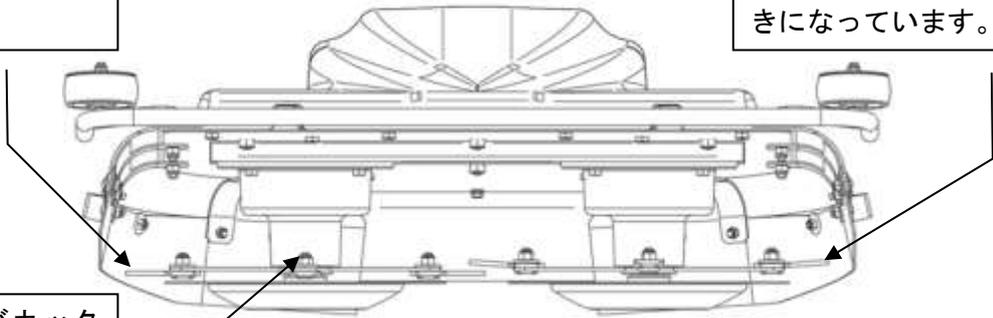


●カッター交換後は組み間違えがないか、左右の刃がぶつからないか確認してください。

左刈部のナイフ 2(マガリ)はカッターディスク上面に付き、上方向に反った状態になっています。また、削れ確認用の打刻は下向きになっています。

交換前の状態

右刈部のナイフ 1(チョク)はカッターディスク下面に付いています。また、削れ確認用の打刻は下向きになっています。

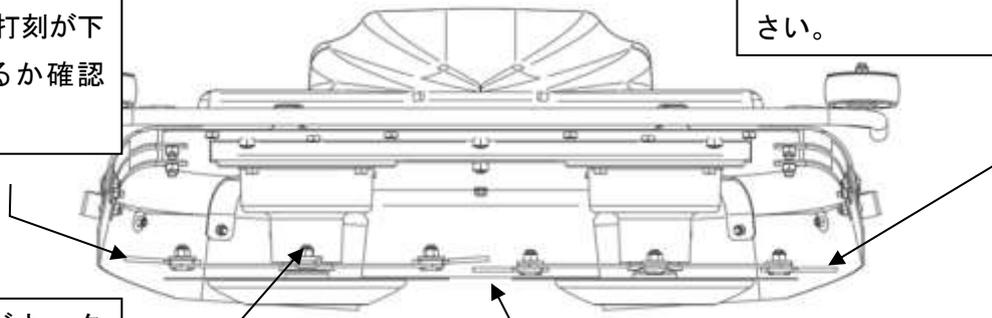


ナイロンナットがカッターディスク上面側に取り付けられています。

左刈部に付け替えたナイフ 1(チョク)がカッターディスク下面に付き、削れ確認用の打刻が下向きになっているか確認してください。

交換後の状態

右刈部に付け替えたナイフ 2(マガリ)がカッターディスク上面に付き、上方向に反った状態になっているか確認してください。また、削れ確認用の打刻が下向きになっているか確認してください。



ナイロンナットがカッターディスク上面側に取り付けられているか確認してください。

左右の刈刃を手でゆっくり回して、ぶつかっていないか確認してください。

運搬するとき

■ トラック等への積み降ろし

アユミ板を使つてのトラックへの積み降ろし

注意

- ・ 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
- ・ 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用して下さい。
- ・ アユミ板は接地した際に 20° 以下の角度になる長さの物を使用してください。
例：軽トラックの場合 2100mm(7 尺)で約 18 度の角度になります。

本体の総重量はバッテリー1 個時 約 116 kg、バッテリー2 個時 約 128 kg

(積み込み手順)

- ① アユミ板の幅を、クローラの幅に合わせてください。(外幅で約 578 mm)
- ② ユニット部を最大まで上げ、前進で速度を 30%にしアユミ板を上ってください。
- ③ 本機が完全に乗り、位置調整をしたら本体とコントローラーの電源を切ってください。

(降ろす手順)

- ① アユミ板の幅を、クローラの幅に合わせてください。(外幅で約 578 mm)
- ② ユニット部を最大まで上げ、後進で速度を 30%にしアユミ板を下ってください。

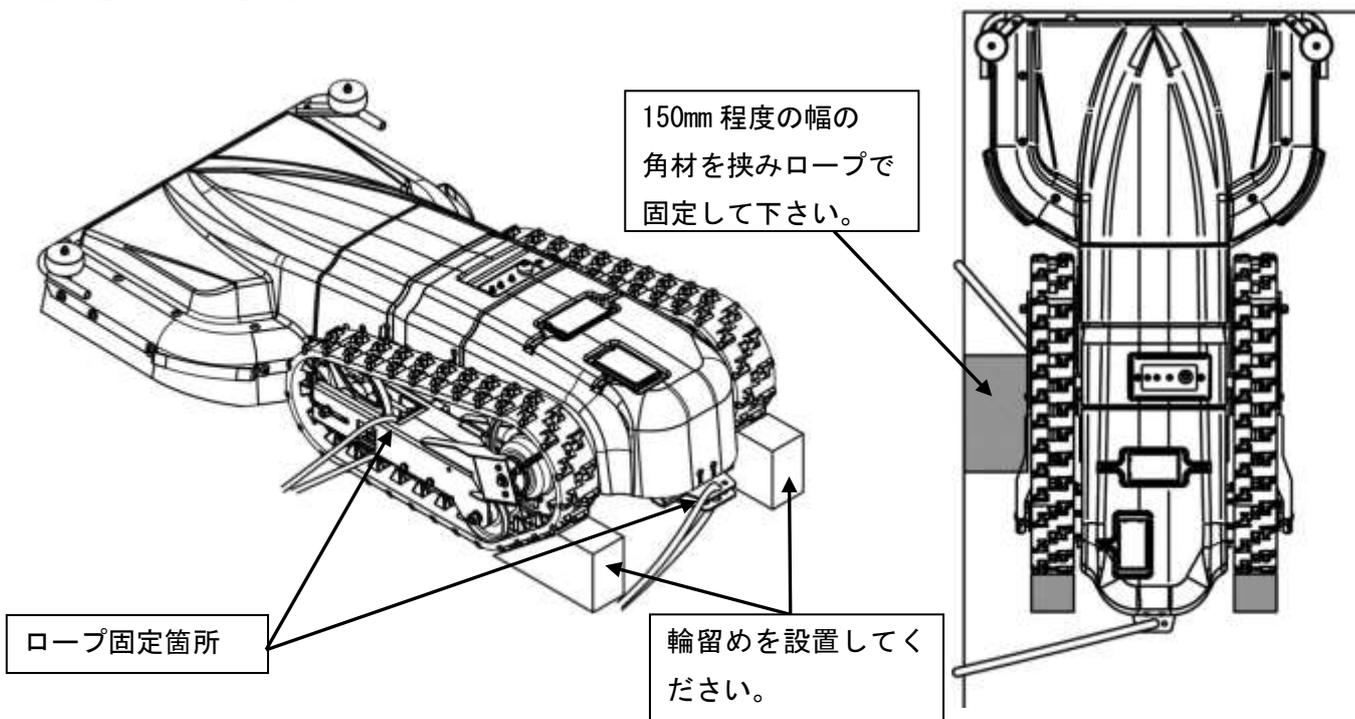
注意

アユミ板の上での停車はしないでください。万一、停止した場合はアユミ板の側面側から後部取付部やフロントバンパー部を手で支えてください。支える時はクローラーを支えないでください。挟まれてケガをする恐れがあります。停止後、本機が空走する事がありますので、十分注意してゆっくりアユミ板から降りてください。電源を再び入れる際は、必ず平坦なところで行ってください。

■ ロープによる固定方法

トラック等に積載したら本体とコントローラーの電源を切ってください。電源が切れていることを確認した後、ロープ等で固定し、輪留めを設置してください。

また、バッテリーを装着したまま積載する場合は、バッテリーがゴムバンドで確実に固定されていることを確認してください。



※ロープによる固定は過度な力をかけない様にしてください。機体が遊ばなくなる程度の力で固定するようお願いします。

※不整地を走るような状況の場合はバッテリーを本体から降ろして運搬してください。

※トラック等から機体を降ろす際は必ず本体やコントローラーの電源が入っていない状態でロープや輪留めを外してください。

※ロープが樹脂カバーに当たらない様にしてください。破損の原因になります。

※クローラーにロープ固定しないでください。クローラーの変形やクローラー外れの原因になります。

長期間使用しないとき

作業シーズンが終わり長期間保管する時は、次の手入れ・保管を行ってください。

① 機体の清掃

水洗いの方法は「点検・整備方法と確認箇所」の項を参照してください。

② 各部締め付け

ボルト、ナット、ビスなどが緩んでいないか確認してください。

③ 機体のグリスアップ

注油箇所は「点検・整備方法と確認箇所」の項を参照してください。

④ 機体の保管

本体の保管は水平で雨、風、直射日光の当たらない場所へ本機を止め、バッテリーを取り外し保管してください。また、1週間以上の長期保管の際は一度リフトスプリングを外して保管してください。付けた状態のまま保管するとバネの寿命低下につながります。

トラブルシューティング

万一故障の時は、早めにお買い上げ販売店で点検整備してもらうことが、長持ちさせる秘訣です。

症状	原因	対処法
バッテリーの電源を入れたが電源ランプ(橙色)及び緑色のランプが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーが本体に接続されていない可能性があります。 ・バッテリーのヒューズ切れの可能性もあります。 ・配線抜け・断線の可能性があります。 	バッテリーをのネクタを本体側のネクタにしっかりと接続し、再度電源を入れてください。接続しても点灯しない場合はヒューズ切れや配線抜け・断線の可能性があります。お買い上げの販売店へご連絡ください。
走行トリガーを操作しても走らない。	速度調整ボリュームが0~15%程度になっている可能性があります。	速度調整ボリュームの数値を上げ、走行ができるか確認してください。
	走行モーターのカプラー抜けの可能性もあります。	走行モーターのカプラーが繋がっているか確認してください。確認箇所はスマモ本体付属の取扱説明書「点検・整備方法と確認箇所」の項をご確認ください。外れている場合は接続してください。
	配線抜け・断線の可能性があります。	上記項目を確認しても動かない場合は配線抜け・断線の可能性があります。お買い上げの販売店へご連絡ください。
超信地旋回(その場旋回)ができない。	設定スイッチが操作されていません。	設定スイッチの操作に関しては「点検・整備方法と確認箇所」の項を確認しスイッチを指定の位置にしてください。
リフト部が昇降できない。	リフト部まわりに草や枝などが絡まっている可能性があります。配線抜け・断線の可能性があります。	リフト部の昇降を阻害している異物を除去してください。異物の挟まりなどもなく、リフトモーターが動かない場合は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

症状	原因	対処法
<p>コントローラーのディスプレイがトップ画面以外の画面表示になっている。</p>	<p>誤ってマルチセクターを操作した可能性があります。</p>	<p>バックボタンを数回押すとトップ画面に戻ります。</p>
<p>走行時・作業時に徐々に片側に曲がっていく。</p>	<p>左右クローラーの回転速度が一致していない可能性があります。</p>	<p>クローラーのテンションが左右で同程度になっているか確認してください。また、クローラーに土や草などの異物が挟まっていないか確認してください。特に砂利のある場所で旋回すると転輪と本体の隙間に石が挟まり転輪が回らなくなる場合があります。石が挟まっている場合は除去してください。走らせた際に転輪がしっかりと回っているか確認してください。</p> <p>クローラーのテンション調整や異物除去をしても曲がる場合はコントローラーの左右速度微調整スイッチを操作し直進するよう設定してください。調整方法はスマモ本体付属の取扱説明書の「運転方法」の項を参照してください。</p>

■ 異常診断機能

機体及びバッテリーに異常が発生した場合、ランプの点灯パターンや点滅によりエラー箇所の推測ができます。

点灯・点滅内容を確認したのちに電源スイッチを速やかに切ってください。

電源を切ったのち点灯・点滅内容に応じた対処法をご確認ください。

電源ランプエラー表示一覧(橙色)

ランプの状態	原因	対処法
 消灯	バッテリー電源を ON にしたとき、緑のランプが点灯するが電源ランプが消灯している場合は非常停止スイッチが押されています。	非常停止スイッチを解除してください。
 2回点滅	① コントローラーの電源が入っていません。 ② コントローラーの電源を入れる際にスイッチに触ったまま電源を入れています。 ③ コントローラーの刈刃回転スイッチが押されています。	① コントローラーの電源を入れてください。 ② コントローラーのスイッチ類に触れずに電源を入れてください。 ③ 刈刃回転スイッチをもう一度押し回転指示を切るか、コントローラーの電源を一度切り、再度電源を入れてください。
 3回点滅	刈刃低回転異常です。	本体電源を切り刈刃回りの草や異物がある場合は取り除いて2～3分放置後、再度電源を入れてください。
 4回点滅	電源が入っている状態で刈刃を回転させた後、設定スイッチを操作して刈刃回転方向を変えてしまった。	一度本体の電源を切り再度電源を入れてください。 この時刈刃回転スイッチを押したままの状態になっている場合2回点滅が発生します。その際は刈刃回転スイッチをもう一度押し回転指示を切るか、コントローラーの電源を一度切り、再度電源を入れてください。
 5回点滅	刈刃関係エラー	刈刃ランプのエラー

刈刃ランプエラー表示一覧(緑色)

ランプの状態	原因	対処法
  点滅 点灯	刈刃モーターの高温異常です。	本体電源を切り刈刃回りの草や異物がある場合は取り除いて2～3分放置後、再度電源を入れてください。
 2回 点滅	刈刃モーターの過電流異常です。	本体電源を切り刈刃回りの草や異物がある場合は取り除いて2～3分放置後、再度電源を入れてください。
 3回 点滅	刈刃ドライバーの高温異常です。	本体電源を切り刈刃回りの草や異物がある場合は取り除いて2～3分放置後、再度電源を入れてください。
 4回 点滅	① モーターへの結線異常の可能性 があります。 ② 刈刃モーター回転開始時の回転 異常の可能性ががあります。	① 刈刃ユニットとスマモ本体の接続部付 近にあるコネクタがきちんと接続され ているか確認してください。 ② 本体電源を切り刈刃回りの草や異物が ある場合は取り除いて2～3分放置 後、再度電源を入れてください。
 5回 点滅	電源電圧不足です。	バッテリーと接続されている赤いコネク タ内部の端子が外れていないか確認して ください。
 6回 点滅	過電圧異常です。	バッテリーの出力電圧異常の可能性があ ります。お買い上げの販売店へご連絡く ださい。

※対処後、電源スイッチをONした後でも点滅する場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

消耗部品一覧

本製品は使用に当たり消耗していく部品があります。作業前や作業終了後には各部品確認を行い目安よりも減っている部品がある場合交換をお願いします。

また、下記一覧に記載していない部品で破損や紛失をした際はお買い上げの販売店へ早急に注文をお願い致します。交換目安は「点検・整備方法と確認箇所」の項をご確認ください。

本誌記載名	正式品名	品番	個数／台
フロントスカート	スカート(カッター)	U717235000	1
サイドスカート	スカートL(カッター)	U717236000	2
リアスカート	スカート(ジョイント)	U717238000	1
ナイフ1(チョコ)	ナイフ1(チョコ)	U677122000	4
ナイフ2(マガリ)	ナイフ2(マガリ)	U677123000	4
ボルト(ナイフ)	ボルト(ナイフ)	U717119000	8
カッターガード	カッターガード	U717118000	2

主要諸元

名称	電動リモコン作業機スマモ専用 刈刃ユニット
型式	M700
全長 (mm)	620 本体装着時 : 1480
全巾 (mm)	845
全高 (mm)	355
刈幅 (mm)	716
重量 (Kg) 本体積載時	刈刃ユニット単体 : 25 本体装着時=バッテリー1 個時 : 116 バッテリー2 個時 : 128
刈刃モーター	300W 相当 ×2
作業面積	700 m ² /h (※1)
作業距離 (バッテリー1 個時)	1100m (※2, ※4)
作業時間 (バッテリー1 個時)	約 60 分 (※3, ※4)
作業角度	最大 35° (本体装着時)

※1 作業面積は速度表示 35% (約 1.1 km) 時に刈刃を回転させ草刈り作業を行った際の面積です。
気温や作業環境、草の種類や生え方により前後します。

※2 速度表示 35% (約 1.1 km) 時に刈刃を回転させ草刈り作業を行った際の走行可能距離です。
気温や作業環境、草の種類や生え方により前後します。

※3 バッテリー1 個搭載時の平均作業時間です。気温や作業環境、草の種類や生え方により前後します。

※4 バッテリーを 2 個搭載した場合、約 2 倍程度 (バッテリー2 個分) となります。

諸元は改良のため予告なく変更する事があります。ご了承ください。

購入日 _____ 年 月 日

型式 _____

シリアル番号 _____



株式会社

ホームページ <http://www.sasaki-corp.co.jp>

ササキコーポレーション

本社・工場 / 〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-3111 FAX 0176-22-8607
製品窓口 / 〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-0170 FAX 0176-25-3127
部品窓口 / 〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-25-3170 FAX 0176-25-3171
北東北営業所 / 〒034-0001 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-75	TEL 0176-23-0354 FAX 0176-23-9655
仙台営業所 / 〒989-1631 宮城県柴田郡柴田町東船迫2-4-11	TEL 0224-58-7780 FAX 0224-58-7782
関東営業所 / 〒329-0201 栃木県小山市栗宮1241-9	TEL 0285-45-8911 FAX 0285-45-8910
新潟営業所 / 〒954-0051 新潟県見附市本所1丁目14番17号	TEL 0258-61-1810 FAX 0258-62-3160
岡山営業所 / 〒702-8002 岡山県岡山市中区桑野110-2	TEL 086-274-9508 FAX 086-274-9510